

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
1	英語音声学A	山田 英二	4月11日(月)～7月11日(月) 毎週月曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	13:00～14:30
開講年次	2年次～			
【概要】				
<p>音声学は、いわゆる言語学の主要な一分野を形成しています。音声学の主な目的は音声言語に関するいろいろな事象を研究・解明することにあります。音声は言語には欠くことのできないものですが、音声学の知識は、ある言語を理解し研究する場合、必須のものといえるでしょう。</p> <p>この講義では、「一般音声学」の観点から音声学の基礎的事項を説明すると共に、英語という「個別言語」に光をあて、その音声的・音韻的特徴を明らかにしていきます。</p> <p>前期は、調音音声学の基礎を確立することを主たる目標とします。</p>				
【授業計画】				
<p>第1回: (スタートアップ授業) 英語音声学とは何か(調音音声学、音響音声学、聴覚音声学)</p> <p>第2回: 調音位置(Place of Articulation)+小レポート</p> <p>第3回: 調音方法(Manner of Articulation)+小レポート</p> <p>第4回: 子音(1) /m n ŋ p b t d k g/+小レポート</p> <p>第5回: 子音の発音練習(1) /m n ŋ p b t d k g/+小レポート</p> <p>第6回: 子音(2) /f v θ ð f ʒ ʃ j w l tʃ dʒ/+小レポート</p> <p>第7回: 子音の発音練習(2) /f v θ ð f ʒ ʃ j w l tʃ dʒ/+小レポート</p> <p>第8回: 母音(1) /i i e e æ/+小レポート</p> <p>第9回: 母音の発音練習(1) /i i e e æ/+小レポート</p> <p>第10回: 母音(2) /u u o o o a/+小レポート</p> <p>第11回: 母音の発音練習(2) /u u o o o a/+小レポート</p> <p>第12回: 音声記述の問題点+小レポート</p> <p>第13回: 音韻規則(1) Assimilation+小レポート</p> <p>第14回: 音韻規則(2) Coalescence, Elision+小レポート</p> <p>第15回: 纏め</p>				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
2	フランス語学概論A	川島 浩一郎	4月11日(月)～7月11日(月) 毎週月曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回) ※4月11日、7月4日、7月11日はお申込みできません。	16:20～17:50
開講年次	3年次～			
【概要】				
<p>フランス語を学習する過程で「なぜ?」という疑問を感じた経験が、誰にでもあるのではないのでしょうか。この「なぜ?」を大切に、フランス語の理解にもう一步深く踏み込むことが、この授業の目的です。いわば、フランス語を単に「習得」するだけの段階から、それを「考察」の対象とする段階への橋渡しをする授業です。ちなみに「フランス語学」は、linguistique française の翻訳で、フランス語を対象にした言語学を意味します。</p> <p>授業ではフランス語学の基本概念について概説していきますが、テキストの講読一辺倒という形はとりません。また一方的な講義でもなく、問題演習や個人あるいはグループでの口頭発表を随時求めます。</p> <p>具体的な内容については「授業計画」を参照してください。具体例を観察・分析しながら、全体で議論をしていきます。</p>				
【授業計画】				
<p>1. イントロダクション(スタートアップ授業)</p> <p>2. 口頭発表の内容と日程、言語とは何か</p> <p>3. 言語学とは何か</p> <p>4. 音声学(1)</p> <p>5. 音声学(2)</p> <p>6. 音声学(3)</p> <p>7. 音韻論(1)</p> <p>8. 音韻論(2)</p> <p>9. 音韻論(3)</p> <p>10. 音韻論(4)</p> <p>11. 音韻論(5)</p> <p>12. 音韻論(6)</p> <p>13. 形態論(1)</p> <p>14. 形態論(2)</p> <p>15. 進捗調整とまとめ</p>				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
3	ヨーロッパ表象文化特講A	ゴシック・マレーン	4月12日(火)～7月19日(火) 毎週火曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	9:00～10:30
開講年次	3年次～			
15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。				
【概要】				
<p>美術作品や建築を通して「ヨーロッパの中のドイツ」を理解するのがこの授業の目的です。「ドイツ」とは何か。現在の地図を見れば、ドイツ連邦共和国という国があり、その地域に住んでいる人は「ドイツ人」と単純に考えがちかも知れませんが、歴史的に見ると答えは簡単ではありません。ヨーロッパの真ん中にある現在ドイツと呼ばれている地域が、周りからの影響を受けながら存在してきましたが、ずっと共通するのは言葉だけと言ってもいいです。国家としてドイツが登場したのは1871年で、まだ150年間の浅い歴史です。</p> <p>この授業で絵画・彫刻・建築を時代に沿って考察していきます。その背景にある社会や文化を知ることが不可欠なので、常にそれをいっしょに学んでいきます。できる限り多くの時間を美術作品の考察に使えるよう、教科書や指示された資料をよく読んでから授業に臨んでください。</p>				
【授業計画】				
<p>1 初めに: 授業の進め方・成績評価・授業上の注意点の説明・美術について(スタートアップ授業)</p> <p>2 導入: ヨーロッパ・ドイツ・美術・社会</p> <p>3 先史時代・古代</p> <p>4 中世前期(前ロマネスク)</p> <p>5 中世中期(ロマネスク)</p> <p>6 中世の社会</p> <p>7 中世中期(ゴシック)</p> <p>8 中世から近世へ(ルネサンス)</p> <p>9 近世の社会</p> <p>10 近世1(バロック)</p> <p>11 近世(古典主義)</p> <p>12 近世から近代へ(ロマン主義)</p> <p>13 19世紀の社会</p> <p>14 近代(歴史主義)</p> <p>15 まとめ</p>				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
4	ヨーロッパ地域文化特講A	田口 武史	4月13日(水)～7月20日(水) 毎週水曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	10:40～12:10
開講年次	3年次～	15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。		
【概要】				
<p>西洋教育思想をとおして、ヨーロッパ文化圏の特性およびその変化を洞察します。</p> <p>教育思想の根本には、「学ぶ」「知る」「教える」とはということなのかという原理的問いがあります。これらの問いに答えるべく提起される教育論には、したがって、その思想家の／その時代の理想とする人間像・社会像が色濃く反映されていると考えられます。同時にまた、そうした理想の実現を阻む要因に対する批判や改善策、あるいは妥協も含まれるでしょう。つまり教育思想とは、人間の知的営為が個人と社会においてどのようにイメージされているかを端的に示すものであり、それゆえ当該の文化を知る格好の対象となりうるのです。</p> <p>以上の観点に立ち、個別的教育論を、誰が、誰を、何を、何の目的で、どのように教育するか、といった視点で分析的に把握したのち、時代状況・思想潮流と照らし合わせて理解を深めます。重要なポイントについては原典も参照します。さらに日本のアクチュアルな教育問題も視野に入れ、それを西洋における古今の教育論をふまえて検討することで、学習対象を具象的に捉えるよう努めます。できる限り多くの時間を考察に使えるよう、教科書や指示された資料をよく読んで授業に臨んでください(授業の初めに、予習確認の小テストを課します)。また授業の終わりに授業後には、コメントを提出してもらいます。コメントには、学習内容を敷衍させた見解を書いてもらいます。また皆さんの書いたコメントの一部は、次回授業時に取り上げて学習事項を振り返るとともに、議論の契機とします。</p>				
【授業計画】				
1:スタートアップ授業(シラバスに関する説明と授業の進め方) 2-4:第1章 古代の教育 5-7:第2章 中世の教育 8-10:第3章 ルネサンスと宗教改革の時代 11-15:第4章 市民革命と産業革命の時代				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
5	英語音声学A	竹安 大	4月14日(木)～7月14日(木) 毎週木曜日および5月7日(土)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	16:20～17:50
開講年次	2年次～	15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。		
【概要】				
<p>この講義では、音声学・音韻論における様々な概念を解説し、音声学・音韻論における分析の枠組みを用いて英語の発音の特徴を明らかにしていきます。前期は、調音音声学に焦点を当て、言語の音が作られる仕組みを理解し、英語の個々の音がどのように発音されているのかを他人に説明でき、また、自分でも正確に発音できるようになることを目指します。英語の発音の特徴をより深く理解することができるよう、普段無意識に使っている日本語の発音の特徴についても触れ、日本人が英語を発音するうえで特に注意しなければならない点についても理解を深めます。</p>				
【授業計画】				
1.スタートアップ授業:導入、音声学の諸分野／課題① ※授業週開始までにスタートアップ授業動画を視聴し、授業の進め方等を把握し、課題に取り組んでください。第2回以降は、下記の内容を学習します。 2.調音器官:名称と働き 3.子音の記述方法:調音点、調音法、声帯振動 4.英語と日本語の子音①:発音記号、課題② 5.英語と日本語の子音②:子音の発音および聞き取り練習、発音テスト① 6.母音の記述方法:舌の上下・前後位置、円唇性 7.英語と日本語の母音①:発音記号、課題③ 8.英語と日本語の母音②:母音の発音および聞き取り練習、発音テスト② 9.音素と異音①:概念と具体例 10.音素と異音②:条件異音の発音および聞き取り練習、発音テスト③ 11.英語と日本語の音声・音韻規則①:同化 12.英語と日本語の音声・音韻規則②:脱落、挿入 13.アクセント①:強勢アクセントとピッチアクセント 14.アクセント②:強勢とリズム 15.有標性、英語の方言				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
6	古代ギリシア哲学	岩田 直也	4月15日(金)～7月15日(金) 毎週金曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回) ※4月29日(祝)昭和の日は授業が行われず。	13:00～14:30
開講年次	2年次～			
【概要】				
<p>紀元前6世紀から紀元後6世紀頃において、古代ギリシアを中心に(古代ローマを含む)展開された哲学思想を概説します。古代の哲学の魅力は、何といっても、スケールの大きい哲学の根本問題に真っ向から立ち向かう点にあります。この時代の多くの哲学者たちが「世界は何かからできているのか」、「知るとは何か」、「存在するとは何か」、「幸福な人生とはどのようなものか」といった難問に正面から取り組みました。もちろん、彼らの答えには(とくに物理的な問題に関して)現代では完全に否定されているものも少なくありません。しかしながら重要なのは、彼らがどのような仕方ですれら諸問題を解決しようとしたのか、という思考法を学ぶことです。実際に、近代科学や古代以降の西洋哲学も彼らの思考を批判・継承したのちとして産まれてきました。古代哲学を学ぶことは、現代の私たちを取り巻く諸問題をより深く考えるためにも、多くの示唆と洞察をもたらしてくれるでしょう。</p> <p>この授業では、まず初めに古代哲学全体を時代順に概観し、その後にそれぞれのトピックについて代表的な哲学者を取り上げ詳しく考察する仕方でも進めます。これによって、各哲学者の思想の特徴を比較しやすく、さらに、現代の考え方との相違もより明確になるでしょう。後半部の授業では、事前に配布するテキストの読解をベースに講義を行いますので、必ず資料に目を通した上で出席して下さい。授業で用いた資料の分析は、定期テストでも課されます。</p>				
【授業計画】				
1. 最初期の哲学者たち(スタートアップ授業) 2. アテナイの哲学 3. ヘレニズムとローマの哲学 4. 古代の認識論①:ソクラテスまで 5. 古代の認識論②:プラトン 6. 古代の認識論③:アリストテレス 7. 古代の認識論④:ヘレニズム 8. 古代の存在論①:パルメニデスの二世界論 9. 古代の存在論②:プラトンのイデア論 10. 古代の存在論③:アリストテレスのカテゴリー論 11. 古代の存在論④:アリストテレスの形而上学 12. 古代の倫理学①:原子論と倫理学 13. 古代の倫理学②:プラトンの正義論 14. 古代の倫理学③:アリストテレスの徳倫理学 15. 古代の倫理学④:エピクロスの快楽論とストア派の倫理学				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間		
7	ヨーロッパ言語文化概論A	堺 雅志	4月15日(金)～7月15日(金) 毎週金曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回) ※4月29日(祝)昭和の日は授業が行われず。	14:40～16:10		
開講年次	3年次～					
<p>【概要】</p> <p>ヨーロッパの言語文化-多様性の諸相 ヨーロッパの多様な言語文化を知り、その歴史的、地理的背景を考察します。 音、文字、語彙、文法の違いがどこからくるのか、そしてそれがどう保存され、展開するのかを、古代から紐解いてゆきます。具体的には、民族の移動や宗教の影響、伝説の伝播、辞書の編纂、翻訳などを例に概観します。とくに考察対象とするのは、ドイツ語とフランス語です。 ヨーロッパの言語文化を俯瞰することを通じて、受講者自身にとっての独仏両言語文化の位置づけを確認しましょう。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(スタートアップ授業) 2 ヨーロッパの言語分布 3 文字のはなし 4 インド・ヨーロッパ祖語のはなし 5 ギリシア語とラテン語 6 ゲルマン語とロマンス語 7 聖書のはなし 8 ヨーロッパ中世 9 フランクということば 10 トリスタン伝説 11 ルネサンス 12 啓蒙とことば 13 辞書のはなし 14 翻訳のはなし 15 これからのヨーロッパの言語-討論とまとめ 						
No.	科目名	講師名	期 間	時 間		
8	人間関係論A	渡邊 淳一	4月13日(水)～7月20日(水) 毎週水曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	10:40～12:10		
開講年次	3年次～					
<p>【概要】</p> <p>今日の社会では人間関係の重要性は十分に認識され、カウンセリングやコーチングなどの実務が多くの企業や組織において必要不可欠なものとなっています。この講義は人間関係論をケーススタディとして、企業経営者を中心とした実務家の方々によるオムニバス形式により、現場に則した観点から展開していきます。 友人関係やサークル活動、アルバイトなど日ごろの生活をしているとコミュニケーション(=意思疎通)の面白さや難しさを感じるがあると思います。「より良い人間関係を作るためにはどうコミュニケーションすれば良いのか」がこの講義のテーマです。 コミュニケーションの不足は人間関係を悪化させ、組織を劣化させる要因となります。コミュニケーション不足によるストレス増大やモチベーションの低下が原因で業績悪化に陥っている会社は多くあります。逆に、研修などでコミュニケーション能力の向上を図り業績アップにつなげている会社も多く見られます。コミュニケーションを意識的に増やすことや上手なコミュニケーションを行うことによって、人間関係が劇的に改善することがあります。その具体的な方法を知ること、皆さんのこれからの人生を豊かにするでしょう。この講義を通して上手なコミュニケーション方法を学び、修得することで友人関係やサークル活動などを豊かにし、大学生活をより充実したものにしてほしいと願います。 コミュニケーション手法を実践していくことを心がけて、学生諸君が新しい自分、新しい関係に出会えることを期待しています。</p> <p>【授業計画】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> ① スタートアップ授業 「アカデミック・インテグリティ」 ② 4/13 藤重知子・合同会社ふじこカンパニー代表 「声と話し方でプラスコミュニケーション」 ③ 4/20 渡邊淳一 「ゲスト講師:マイクコシ・ゴルフティーチングプロ」 ④ 4/27 大坪信之・(株)コペル代表取締役社長 「幼児の右脳教育」 ⑤ 5/11 高橋美紀・コーディアル社会保険労務士事務所代表 「感情のコントロールとメンタルヘルス」 ⑥ 5/18 高巢和宏・(株)昭和設計九州事務所主管 「コミュニケーション形成の傾向と対策」 ⑦ 5/25 只松崇・ビッグフィールドマネジメント(株)取締役 「アクティブリズニング」 ⑧ 6/1 只松崇・ビッグフィールドマネジメント(株)取締役 「アサーション」 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> ⑨ 6/8 太田由美子・キャリア&ライフデザイン代表 「ライフデザインとワークライフバランス」 ⑩ 6/15 平川雅樹・(有)アサム代表取締役 「手書き通信文による人間関係構築」 ⑪ 6/22 有吉みよ子・(有)シアンデザインマネジメント代表 「広告と広報」 ⑫ 6/29 渡邊淳一 「ゲスト講師:行徳哲男・日本BE研究所所長」 ⑬ 7/6 林敏之・(株)MARUプロ 代表取締役社長 「スポーツを通しての人間教育」 ⑭ 7/13 平田淳二・joyent!代表 「主体性と共働性」 ⑮ 7/20 渡邊淳一 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> ① スタートアップ授業 「アカデミック・インテグリティ」 ② 4/13 藤重知子・合同会社ふじこカンパニー代表 「声と話し方でプラスコミュニケーション」 ③ 4/20 渡邊淳一 「ゲスト講師:マイクコシ・ゴルフティーチングプロ」 ④ 4/27 大坪信之・(株)コペル代表取締役社長 「幼児の右脳教育」 ⑤ 5/11 高橋美紀・コーディアル社会保険労務士事務所代表 「感情のコントロールとメンタルヘルス」 ⑥ 5/18 高巢和宏・(株)昭和設計九州事務所主管 「コミュニケーション形成の傾向と対策」 ⑦ 5/25 只松崇・ビッグフィールドマネジメント(株)取締役 「アクティブリズニング」 ⑧ 6/1 只松崇・ビッグフィールドマネジメント(株)取締役 「アサーション」 	<ol style="list-style-type: none"> ⑨ 6/8 太田由美子・キャリア&ライフデザイン代表 「ライフデザインとワークライフバランス」 ⑩ 6/15 平川雅樹・(有)アサム代表取締役 「手書き通信文による人間関係構築」 ⑪ 6/22 有吉みよ子・(有)シアンデザインマネジメント代表 「広告と広報」 ⑫ 6/29 渡邊淳一 「ゲスト講師:行徳哲男・日本BE研究所所長」 ⑬ 7/6 林敏之・(株)MARUプロ 代表取締役社長 「スポーツを通しての人間教育」 ⑭ 7/13 平田淳二・joyent!代表 「主体性と共働性」 ⑮ 7/20 渡邊淳一
<ol style="list-style-type: none"> ① スタートアップ授業 「アカデミック・インテグリティ」 ② 4/13 藤重知子・合同会社ふじこカンパニー代表 「声と話し方でプラスコミュニケーション」 ③ 4/20 渡邊淳一 「ゲスト講師:マイクコシ・ゴルフティーチングプロ」 ④ 4/27 大坪信之・(株)コペル代表取締役社長 「幼児の右脳教育」 ⑤ 5/11 高橋美紀・コーディアル社会保険労務士事務所代表 「感情のコントロールとメンタルヘルス」 ⑥ 5/18 高巢和宏・(株)昭和設計九州事務所主管 「コミュニケーション形成の傾向と対策」 ⑦ 5/25 只松崇・ビッグフィールドマネジメント(株)取締役 「アクティブリズニング」 ⑧ 6/1 只松崇・ビッグフィールドマネジメント(株)取締役 「アサーション」 	<ol style="list-style-type: none"> ⑨ 6/8 太田由美子・キャリア&ライフデザイン代表 「ライフデザインとワークライフバランス」 ⑩ 6/15 平川雅樹・(有)アサム代表取締役 「手書き通信文による人間関係構築」 ⑪ 6/22 有吉みよ子・(有)シアンデザインマネジメント代表 「広告と広報」 ⑫ 6/29 渡邊淳一 「ゲスト講師:行徳哲男・日本BE研究所所長」 ⑬ 7/6 林敏之・(株)MARUプロ 代表取締役社長 「スポーツを通しての人間教育」 ⑭ 7/13 平田淳二・joyent!代表 「主体性と共働性」 ⑮ 7/20 渡邊淳一 					

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
9	ベンチャー起業論A	阿比留 正弘	4月15日(金)～7月15日(金) 毎週金曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回) ※4月29日(祝)昭和の日は授業が行われず。	10:40～12:10 13:00～14:30
開講年次	1年次～	2時限連続の講義です。 この講義の受講を計画している学生は、YouTubeで「ベンチャー起業論2022」と「履修説明」で検索して出てくる動画を見た上で、受講すること。 また、ベンチャー起業論のホームページもよく見ておいてください。 http://www.venture.econ1.fukuoka-u.ac.jp/		

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
10	地球科学 I	三好 雅也	4月14日(木)～7月14日(木) 毎週木曜日および5月7日(土)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	13:00～14:30
開講年次	1年次～			
<p>【概要】</p> <p>最近、大学は卒業し就職したけれど、2・3年で辞めてしまう人がとても多いと言われています。これは、学生が考える企業と企業の実態が異なり、双方のミスマッチが原因と思われます。「ベンチャー起業論」では、受講生全員にインターンシップを義務付け、学生時代に企業の経営者や社員・取引先などと交流することでミスマッチが起こらないように配慮しています。優秀な企業経営者は、生き生きと仕事をし、常に目標を設定し、人生の目的を高く掲げて活動しています。そのような素晴らしい企業経営者の講義を聞き、企業にインターンシップに行くことで企業経営者の魅力的な生き様を身近に見てください。そしてなりたい自分を発見して欲しいと思っています。</p> <p>この講義は、企業経営者の講義を聞く座学とインターンシップを基本とするプロジェクト活動の実学から成り立ちます。各回の講師については右の講義計画を見てください。プロジェクトでは、企業にインターンシップに行き企業研究を行い、成果報告として「企業対決」のイベントを持ちます。プロジェクトは、具体的には、茶道の千利休が残した「守・破・離」の考えで進めていきます。まず、「守」としてインターンシップ先の企業についての現状把握を行います。経営者の考え、社員、商品の魅力を徹底的に明らかにします。そして「破」では、現状分析で学生が発見する違和感・問題点の分析をおこないます。そして「離」で、オリジナリティーをもって、自らのビジネスプランを構築します。この「ベンチャー起業論A」では守破までをカバーします。</p> <p>この講義はプロジェクト活動が全員に義務付けられております。講義時間だけでなく、多くの課外活動が必要となります。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. ベンチャー起業論を受講する前に (スタートアップ授業)</p> <p>2-3. 4月15日／正田 英樹 株式会社chaintope 代表取締役CEO 「ポートフォリオを使ってベンチャー起業論を活性化しよう」</p> <p>4-5. 4月22日／阿比留 正弘 「思うは招く—夢があれば何でもできる—」 ゲスト講師: 植松努(株式会社植松電機 代表取締役)</p> <p>6-7. 4月29日／阿比留 正弘 「Born Global-福岡から世界へ。海外から始める起業ストーリー—」 ゲスト講師: 渡辺 和喜(MeRISE株式会社 取締役COO)</p> <p>8-9. 5月6日／錦織 良成 映画監督 「日本のローカルは、世界最先端」</p> <p>10-11. 5月13日／奥田 知志 東八幡キリスト教会 牧師 「闇の中で光は輝いて見える」</p> <p>12-13. 5月20日／阿比留 正弘 「プロジェクト結成、中間報告」</p> <p>14-15. 5月27日／阿比留 正弘 「リーダー論」 ゲスト講師: 黒岩 祐治(神奈川県知事)</p> <p>16. 前半のまとめ(中間フォローアップ授業)</p> <p>17-18. 6月3日／阿比留 正弘 「みんな参加の循環型社会」 ゲスト講師: 岩元 美智彦(日本環境設計株式会社 代表取締役社長)</p> <p>19-20. 6月10日／白駒 妃登美 株式会社ことほぎ 代表取締役 「江戸商人に学ぶ商売繁盛の極意」</p> <p>21-22. 6月17日／阿比留 正弘 「路上販売から100億円の道～しあわせ探して80カ国～」 ゲスト講師: 栗原 志功(株式会社あなたの幸せが私の幸せ 代表取締役)</p> <p>23-24. 6月24日／阿比留 正弘 「投資の本質とベンチャーの心構え」 ゲスト講師: 藤野 英人 (レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役社長兼CIO)</p> <p>25-26. 7月1日／大倉 紀子 株式会社ジャンヌマリー 代表取締役 「プレゼンで如何に説得するか？」</p> <p>27-28. 7月8日／岡部 隆司 ココスグループ 代表取締役会長 「逆ピラミッド型組織経営」</p> <p>29-30. 7月15日／阿比留 正弘 「自分もお金も汗流して働こう」 ゲスト講師: 澤上 篤人 (株式会社わかみホールディングス 代表取締役)</p>				

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
10	地球科学 I	三好 雅也	4月14日(木)～7月14日(木) 毎週木曜日および5月7日(土)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	13:00～14:30
開講年次	1年次～			
<p>【概要】</p> <p>地球とその周囲で起こる自然現象は、様々なスケールの現象が複雑に相互作用するシームレス・複合システムとして成り立っている。本講義では、まず教職課程科目として中高理科「地学」の指導要領に関する内容を包括的に概説する。その後、地球を構成する各システム(圏)の生成過程について学び、複合した地球システムの全体像を理解する。さらに、我々が住む地球についての特徴、特に地球を構成する物質の状態と成因について学ぶ。すなわち、太陽系惑星としての地球の特徴、各圏の構成内容を理解するとともに、地球の変動のメカニズム、固体地球の構成物、その生成、および変動のメカニズムなどが本講義で主に学ぶ内容である。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1 イントロダクション(スタートアップ授業)</p> <p>2 地球の内部構造</p> <p>3 地球を構成する物質</p> <p>4 地球の表面を覆うプレート</p> <p>5 大陸と海洋</p> <p>6 プレートテクトニクスと地震</p> <p>7 プレートテクトニクスと火成活動</p> <p>8 中間模擬テストとその解説</p> <p>9 地殻を構成する物質(1) 鉱物</p> <p>10 地殻を構成する物質(2) 火成岩</p> <p>11 地殻を構成する物質(3) 堆積岩</p> <p>12 地殻を構成する物質(4) 変成岩</p> <p>13 地球科学のトピックス</p> <p>14 惑星地球の形成と進化</p> <p>15 まとめ</p>				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
11	社会デザインとの出会い	鈴木 慎也	4月11日(月)～7月11日(月) 毎週月曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	14:40～16:10
開講年次	1年次～	15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。		
【概要】				
<p>本講義は、新入生を対象に実施する社会デザイン工学科の「初年次教育科目」である。社会デザイン工学は英語でCivil Engineeringといわれるように、人々の生活や産業の基盤を作り、その生活を便利に効率的に、安全にかつ快適にする環境づくりを目指しており、その歴史も非常に古い。我が国では「インフラストラクチャー」整備がようやく成熟期に達しており、これまで以上にインフラストラクチャーの管理や運営、維持管理が重要となっている。またインフラストラクチャー事業は到底一人で成し遂げられるものではなく、多様な専門性を持つ一人ひとりが、それぞれの能力を最大限に発揮しつつもチームとして協働しながら進めていくことが不可欠である。コミュニケーション能力の習得が重要とされる所以である。</p> <p>本講義では、インフラストラクチャー事業にあたる組織の形態や機能、影響を受ける地域や人々の特性、用地の取得、環境保全、ならびに契約方式、海外事業への参画などについて学習する。さらに、レポート・論文の書き方、プレゼンテーションの技法などの学習を通して問題認識・解決策の議論を進めるための基礎的な表現能力を習得する。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスの説明およびイントロダクション(スタートアップ授業)(鈴木) 2. ガイダンス、レポート・論文の書き方(鈴木) 3. 種々のインフラストラクチャーとその発展—ローマ水道・利根川東遷・測量など—(鈴木) 4. 種々のインフラストラクチャーとその発展—琵琶湖疏水・玉川上水・下水・橋梁・港湾など—(鈴木) 5. インフラストラクチャー事業の実例—黒部ダム—(鈴木) 6. インフラストラクチャー事業の構想—鉄道事業・都市開発などを通して—(鈴木) 7. インフラストラクチャー事業の構想—小樽運河・東海道新幹線などを通して—(鈴木) 8. インフラストラクチャー事業の実例—青函トンネル—(鈴木) 9. インフラストラクチャーの事業化と事業主体—事業主体の種類—(鈴木) 10. インフラストラクチャーの事業化と事業主体—様々な事業主体・手法—(鈴木) 11. インフラストラクチャー事業の実例—瀬戸大橋—(鈴木) 12. インフラストラクチャーの建設(鈴木) 13. グループワーク—各研究室を訪ねて—(全員) 14. インフラストラクチャーの管理運営と活用(鈴木) 15. 総括—社会デザインとの出会いで学んだこと—(鈴木) 				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
12	基礎防災学	重松 幹二	4月11日(月)～7月11日(月) 毎週月曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	16:20～17:50
開講年次	3年次～			
【概要】				
<p>平成23年3月11日の東日本大震災や平成28年4月14日の熊本地震で、皆さんは防災についてどのような考えを持ったであろうか。さらに、平成11年および15年の御笠川氾濫における博多駅周辺の水没、平成17年の福岡県西方沖地震の被害により、安全と思われていた福岡市内でも日頃から災害に対して高い注意意識が必要であることが明らかとなった。また、将来工場などで活躍する技術者、さらには安全を保障するシステム開発等に進む学生にとっても、災害に関する広い知識を持つことは重要である。将来関東・東海・関西などに就職する学生に対しても、防災・減災に関する知識を身に付けることは自分の命や仕事仲間を守るために極めて重要である。</p> <p>このため、主に災害発生のメカニズムと被害低減のための工学技術を中心とした講義を行う。これは自然災害に限らず、人災への対応も含まれる。講師は学内外から多岐に渡っており、学科の専門性にとらわれず、防災に関する広い知識を得ることに特徴がある。この講義で防災に関する科学的・工学的基礎知識を学ぶことにより、災害から自分や家族を守る術、被害を最小にする準備と対応方法を修得する。特に、自然災害の発生メカニズムや被害予測、災害発生時に必要となる社会システムや被害を軽減する技術、産業活動における安全性配慮の必要性を学び、一生涯役に立つ工学基礎を身に付けることができる。</p> <p>講義は各学部学科の教員および福岡市役所や民間企業を講師としたオムニバス形式で進められる。特に、松井渉は気象予報士であるとともにNHKの気象ニュースキャスターを担当しており、気象予報の仕組みや自然災害全般に関する講義を行う。橋津千穂は福岡市城南区役所および福岡市市民局地域防災課として豊富な経験をもち、災害に対する行政機関の考え方と市民への期待を講義する。今村裕明および橋本安太郎は民間コンサルタント業を営んでおり、従業員側の災害発生防止および企業経営側の事業継続計画(BCP)について、実務経験を活かした講義を行う。</p> <p>なお、この科目は「福岡大学防災士養成研修プログラム」の指定科目となっている。他の指定科目も受講することで、日本防災士機構が認定する「防災士」の受検資格を得ることができる。詳細は工学部事務室あるいはエクステンションセンターに問い合わせること。以下のホームページにも関連資料を掲載している。 http://www.cis.fukuoka-u.ac.jp/~shigem/</p>				
【授業計画】				
[スタートアップ授業]				
1. この授業のねらい(重松)				
[災害のメカニズム]				
<ol style="list-style-type: none"> 2. 最近の地震活動、各種自然被害(松井) 3. 地震のメカニズムとその被害(高山) 4. 津波、高潮のメカニズムとその被害(渡辺浩) 5. 風水害のメカニズムとその被害(渡辺亮一) 6. 土砂災害のメカニズムとその被害(村上) 7. 火山噴火、火砕流、溶岩流(奥野) 				
[災害と社会システム]				
8. 大災害時における避難行動、避難所設営、緊急救助技術(橋津)				
[さまざまな防災技術]				
<ol style="list-style-type: none"> 9. 安全な機械の設計(稲毛) 10. 可燃物と初期消火、危険物の保管(松永) 11. すまいの耐震化と防火(塚越) 12. 情報通信技術、ビッグデータ(鶴田) 13. 雷と電カシステム(孟) 				
[災害と社会システム]				
<ol style="list-style-type: none"> 14. 労働契約、労働安全衛生法(今村) 15. 企業における事業継続計画(橋本) 				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時間
13	測量学	渡辺 浩	4月12日(火)～7月19日(火) 毎週火曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	10:40～12:10
開講年次	1年次～	15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。		
<p>【概要】</p> <p>地形を正確に知ることは都市計画や構造物の設計における第一歩である。また、施工においては設計どおりに地形上に正確な目印を設置していく必要がある。これらのプロセスを測量といい、建設技術者の基本的な能力のひとつとされている。</p> <p>本講義では、古代からの測量の歴史をもとに「計測」というものの基本的な考え方を学び、続いて基本的な測量の方法や技術と、どうしても避けられない誤差をいかに処理し、より正確な結果を得るかについて学習する。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 測量の世界への招待(スタートアップ授業) 2. 測量学とは 3. 測量と誤差 4. 小テスト1/距離測量(1)ー方法 5. 小テスト1の解説/距離測量(2)ー誤差と補正 6. 小テスト2/水準測量(1)ー機器と方法 7. 小テスト2の解説/水準測量(2)ー誤差と調整 8. 水準測量(3)ー調整 9. 小テスト3/角測量(1)ー機器 10. 小テスト3の解説/角測量(2)ー方法 11. 角測量(3)ー誤差と調整 12. 小テスト4/トラバース測量(1)ー測角の調整と方位角 13. 小テスト4の解説/トラバース測量(2)ー方位と緯距・経距 14. トラバース測量(3)ー閉合誤差と調整 15. トラバース測量(4)ー測点の展開 <p>(1～11は渡辺が担当/12～15は両名が担当)</p>				
No.	科目名	講師名	期 間	時間
14	電気磁気学	名倉 徹	4月12日(火)～7月19日(火) 毎週火曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	14:40～16:10
開講年次	2年次～	15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。		
<p>【概要】</p> <p>電気磁気学は電子情報工学の重要な基礎科目の一つで、半導体工学や通信工学などを理解するために必要な科目である。1年次の「基礎電気磁気学」にて学習した電荷、電界と電位、静電容量、誘電体、磁界、電磁誘導の法則などについて、実践的応用へと発展させるためにより深く数学解析的に取り扱い、最終的にはマクスウェル方程式を導出する。</p> <p>企業において研究開発に従事してきた実務経験を活かし、実際に携わった事例等を参考に、講義内容を取捨選択して実践的な講義を行う。講義内容は教科書に基づき、講義スタイルはスライド講義を基本とする。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(スタートアップ授業) 2. 電磁気で扱う数学 3. 電荷と静電界その1 4. 電荷と静電界その2 5. 導体系 6. 誘電体 7. 静電界の解法 8. 電流 9. 磁界その1 10. 磁界その2 11. 磁性体 12. 電磁誘導の法則その1 13. 電磁誘導の法則その2 14. マクスウェル方程式 15. 演習 				
No.	科目名	講師名	期 間	時間
15	半導体デバイス	名倉 徹	4月13日(水)～7月20日(水) 毎週水曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	9:00～10:30
開講年次	3年次～			
<p>【概要】</p> <p>スマホを始めとする電子機器において、その中心的役割を果たしているのが集積回路であり、その回路はシリコンを用いた半導体素子によって構成されている。本講義では、半導体集積回路の内部の様子を理解するとともに、簡単な回路設計についても触れる。</p> <p>企業において研究開発に従事してきた実務経験を活かし、実際に携わった事例等を参考に、講義内容を取捨選択して実践的な講義を行う。講義スタイルは板書講義を基本とする。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(スタートアップ授業) 2. MOSFET その1 3. MOSFET その2 4. CMOS インバータ 5. 遅延 6. LSI 製造プロセス 7. レイアウトルール 8. 電氣的設計規則 9. 足し算と引き算 10. スケーリング則とムーアの法則 11. 電力増幅回路 12. 発振回路 その1 13. 発振回路 その2 14. オペアンプ 15. AD/DA 変換 				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時間
16	健康スポーツ論	檜垣 靖樹	4月11日(月)～7月11日(月) 毎週月曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	9:00～10:30
開講年次	2年次～			
【概要】				
<p>2020年度の人口動態統計の年間推計によると、我が国の出生数は90万人を切り、前年より2万4407人少ない84万832人になることが発表された。同年の死亡数が約137万人と推計されており、50万人超の自然減となる。今後は、少子高齢化がさらに加速すること、また人生100年時代の到来に向け、健康寿命を延伸することが求められる。</p> <p>一方、身体活動量の不足あるいはエネルギー摂取量の過多に起因する生活習慣病の有病者数は増加の一途をたどっている。したがって、疾病予防を目的とした健康スポーツの果たす役割とその期待は高まるものと考えられる。</p> <p>健康スポーツ論では、健康スポーツを通じて、国民の健康増進に資する基本的知識を習得し、氾濫する健康情報より有用な情報を選別できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>まず、健康とスポーツ・身体活動との関係について概説する。次に、わが国で展開されてきた健康施策として、早期発見・早期治療の時代から一次予防重視への政策転換の意義を理解し、今後の健康施策のあり方について議論する。特に、2006年に発表された健康づくりのための運動指針及び2013年に改定された健康づくりのための身体活動指針については、十分に理解し実践できる能力を身につけることが重要である。</p> <p>最後に高齢者の介護予防として、関係学会のガイドラインを参照し運動種目、強度、量などエビデンスに基づく運動の実際を整理し、フレイルやサルコペニアを予防するための健康スポーツについて考える。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1 シラバスの説明およびイントロダクション(スタートアップ授業) SDGsと健康とスポーツ・身体活動の関係について 健康増進法 2 健康スポーツに求められるもの 一次予防、身体活動、身体不活動の予防 3 生活習慣病予防としての健康スポーツ 新健康フロンティア戦略、メタボリックシンドローム、特定保健指導 4 健康づくり施策 健康日本21、健康づくりのための身体活動指針 5 まとめと小テスト(1) 6 骨格筋運動と傷害・損傷 7 障害者の運動能力の特徴と運動 8 健康づくり運動と基本原則 児童期、青年期、高齢期、性差 9 運動疫学研究の情報整理 コホート研究、介入研究 10 まとめと小テスト(2) 11 健康づくり運動の実際 有酸素運動、レジスタンス運動 12 トレーニングと運動強度について 50%VO2max強度、LT強度 14 介護予防のための運動 フレイル、サルコペニア 15 総括と小テスト(3) 				
No.	科目名	講師名	期 間	時間
17	スポーツバイオメカニクス	布目 寛幸	4月12日(火)～7月19日(火) 毎週火曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	13:00～14:30
18				14:40～16:10
開講年次	2年次～			
【概要】				
<p>優れたスポーツパフォーマンスは摩訶不思議な現象のように見えるが、実際には地球上に作用する様々な力学法則をうまく利用したものです。このようなスポーツ動作の背景にある力学的な仕組みをよく理解することで、スポーツパフォーマンスの向上、スポーツ障害の予防、スポーツの指導に対してより理論的で一般的な「見通し」を与えることができると考えられます。</p> <p>本講ではスポーツにみられるヒトや用具の振る舞いを、運動力学の視点から理解することで読み解き、競技力向上やより安全で効果的なスポーツのコーチングなどへ応用できる知識を身につけることを目的とします。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> ①イントロダクション(スタートアップ授業) ②「蹴る」バイオメカニクス ③「蹴る」バイオメカニクス その2 ④「投げる」バイオメカニクス ⑤「投げる」バイオメカニクス その2 ⑥「歩く・走る」バイオメカニクス ⑦「滑る」バイオメカニクス ⑧中間まとめ ⑨「スポーツ用具」バイオメカニクス ⑩「跳ぶ」バイオメカニクス ⑪「泳ぐ」バイオメカニクス ⑫「打つ」バイオメカニクス ⑬「パラリンピック」バイオメカニクス ⑭「科学」とは何か？ ⑮まとめ 				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
19	メンタルマネジメント	下園 博信	4月13日(水)～7月20日(水) 毎週水曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	9:00～10:30
開講年次	4年次～			
【概要】				
<p>個人やチームの能力を発揮させるためには、様々な場面で自己管理能力(メンタルマネジメント)を高めることが重要である。そのためには自己分析、チーム分析、ストレスマネジメント、メンタルトレーニング(認知、思考、感情、注意のコントロール)、試合前・中・後のメンタルコンディショニング、スポーツカウンセリング等の重要性を理解する。その中でも、心理的スキル(目標設定、イメージ、ストレスコントロール、注意集中、心的エネルギーのコントロール、リーダーシップ、コミュニケーション、メンタル・コンディションなどのスキルが含まれる)については、特に重要な事柄として講義中に、事例などを交えながら説明する。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(スタートアップ授業) 2. スポーツ心理学と競技パフォーマンス 3. メンタル・マネジメントの歴史 4. 「動機づけ」とメンタルマネジメント 5. 「チームづくり」とメンタルマネジメント 6. 「認知、知覚課題」とメンタルマネジメント 7. 心理的スキルとメンタルマネジメントの関係 8. ①イメージスキル 9. ②心的エネルギーの管理 10. ③ストレスマネジメント 11. ④注意のスキル 12. ⑤自信と目標設定のスキル 13. メンタル・コンディション 14. スキルトレーニングの実施と評価 15. ライフスキルと自己管理能力 				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
20	野外教育概論	築山 泰典	4月14日(木)～7月14日(木) 毎週木曜日および5月7日(土)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	14:40～16:10
開講年次	2年次～			
【概要】				
<p>高度に発達した機械文明を生み出し、ますます複雑化していく現代社会は、都市化が進み生活空間の中に自然が年々減少していく中、人間は自然を求める行動を起こしてくる。これは、人間の本能的な行動であり、今後ますます増加していく事と思われる。 本講義の前半は、自然の価値を認識し、自然を背景とした生活体験を持つために必要な基礎的知識と技術、後半はキャンプについての基礎知識を学ぶ事を目的とする。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1 野外教育概論の目指すところ【スタートアップ授業】 2 野外教育の意義・目的 3 野外教育技術 生活 4 野外教育技術 自然 5 野外教育技術 プログラム①登山 6 野外教育技術 プログラム②ASE 7 野外教育技術 プログラム③ふりかえり 8 体験学習法 ① 9 体験学習法 ② 10 キャンプの子供への教育的効果 11 キャンプの指導者 12 キャンプカウンセリング 13 キャンプにおける健康管理 14 キャンプにおける安全 15 まとめ 				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
21	生涯スポーツ論	築山 泰典	4月15日(金)～7月15日(金) 毎週金曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回) ※4月29日(祝)昭和の日は授業が行われず。	14:40～16:10
開講年次	1年次～			
【概要】				
<p>「スポーツ=身体活動」といった認識が一般的かもしれないが、この授業での目標は「スポーツの社会的役割を考える」である。 生涯スポーツという言葉は聞き慣れない言葉かもしれない。そのため、「生涯スポーツとは何か？」から授業を始める。 授業では、オリンピックに関する内容から展開を始める。その後、サービスとしてのスポーツを解釈しながら、スポーツの多様性を読み取ることを企図する。その後、近年アダプティッドスポーツと表現される障害者スポーツを題材に、誰のためのスポーツなのかを考える。授業後半では、レクリエーションやキャンプに関する知見も深める。 授業内では視聴覚教材を積極的に用いていく。また、毎回授業の最後にレポートを作成する時間を設け、提出を求める。この授業を通じて、スポーツを考えるということを受講生が自ら気づく機会になるよう、積極的に授業展開を図る。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯スポーツ論の目指すところ【スタートアップ授業】 2 生涯スポーツの意味 3 オリンピックを考える 4 スポーツとジェンダー 5 産業としてのスポーツ1 6 産業としてのスポーツ2 7 スポーツ指導者を考える 8 アダプティッドスポーツ1 9 アダプティッドスポーツ2 10 ドーピングを考える 11 生涯スポーツとしてのレクリエーション1 12 生涯スポーツとしてのレクリエーション2 13 生涯スポーツとしての野外教育1 14 生涯スポーツとしての野外教育2 15 まとめ 				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
22	基礎数学 (分析や判断に数学を生かす。)	杉万 郁夫	4月12日(火)～7月19日(火) 毎週火曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	9:00～10:30
開講年次	1年次～			
【概要】				
<p>高校まで学んできた数学を振り返って、自分にとっては余り役に立たないものと決めつけていませんか。この講義の目標は、いろいろな数学の生かし方を見ることです。もちろん、本格的に用いるためには、コンピュータを使った大量の計算が必要になることもあるのですが、そのアイデアを理解するには、工夫した表や図を作り、簡単な計算をすることで十分でしょう。</p> <p>さて、講義で扱う内容の中から、数回をかけて講義で説明する主なものを紹介しましょう。日常生活のどんなときに数学が使えるように感じますか。おそらく、一つは状況を理解するために数字を読むときでしょう。ここでは「分析の数理」と呼ぶことにします。また、何かをする方法が幾つかあって、その中からどれか良い方法を選ぶなければならないときがもう一つではないでしょうか。このような問題は、「判断の数理」ということにします。</p> <p>講義の最初に、「分析の数理」入門として、若い皆さんにとって大切な日本の人口データを一緒に読んでみましょう。最近、人口は減少し始めた。地方の過疎化が一段と進み限界集落が生まれ、少子高齢化も深刻です。よく知っているつもりでもデータから自分の力で読んでみると、新しい認識ができると思います。数学を生かすことの基本は、数字を読むことから始まります。「判断の数理」でとりあげるのは判断における「中庸(偏らないこと)」の大切さです。バランス感覚の大切さといってもいいでしょう。数学を使って行う判断では、良し悪しが明確なことが多いのですが、日常生活状況では、偏りのない中位の判断が良いこともしばしばあります。どのような場面がそうなのかについて紹介していきます。</p> <p>最後に、人が集まって形成する社会としての判断について考えます。もちろん、全員の意見を反映した判断が望まれますが、普通、使われている多数決でよいのでしょうか。最近、様々な組織で使われているちょっとと目新しい投票システムとその良さを紹介しようと思っています。ここでは、コンピュータを用いたシミュレーションを生かして考えていきます。また、全体にとっては良い判断も、ある人の犠牲のもとにしか成り立たないとしたらといった個人を尊重した近代的価値観に基づく判断についても考えてみましょう。</p> <p>ともかく、様々な方法の中にあるアイデアを楽しんでください。方法を知ること以上に、目的に向かって使われている数学の姿を見てもらうことが大切です。世の中の仕組みにも多くの数学が使われていることが分かってもらえると思いますし、皆さんの日常の思考にも変化が起るかもしれません。</p>				
【授業計画】				
<p>1) 数字を読もう(分析の数理1)スタートアップ授業(動画) (変化を見るには、折れ線グラフ?)</p> <p>2) 変化を読むと見えてくる(分析の数理2) (大きな変化と小さい変化)</p> <p>3) 更なる分析を重ねるには(分析の数理3) (分析結果の除去)</p> <p>4) 今の変化の先にあるもの(分析の数理4) (未来予測から今を知る)</p> <p>5) 「分析の数理」のまとめ(分析の数理5) (いろいろな方法を併せて使う)</p> <p>6) 数理モデルを使って考える。 (文系の世界の数理モデル)</p> <p>7) あいまいな判断の良さ(判断の数理1) (選択肢を組み合わせる良さ)</p> <p>8) あいまいな判断の良さ(判断の数理2) (確率的な選択の良さ)</p> <p>9) あいまいな判断の良さ(判断の数理3) (社会におけるあいまいな選択の意味)</p> <p>10) 社会の判断方法(その1) (皆が納得する決定とは?)</p> <p>11) 社会の判断方法(その2) (身近な決定方法を考える)</p> <p>12) 数学を生かす楽しさを知る。 (コンピュータ・シミュレーションを使ってみよう。)</p> <p>13) 多数決を考える(その1) (みんなの意思をまとめるには)</p> <p>14) 多数決を考える(その2) (いろいろな決定方法)</p> <p>15) 多数決を考える(その3) (多数決に替わる決め方を考える)</p>				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
23	論理学A	岩田 直也	4月12日(火)～7月19日(火) 毎週火曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	13:00～14:30
24				18:00～19:30
25			4月13日(水)～7月20日(水) 毎週水曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	14:40～16:10
開講年次	1年次～			
【概要】				
<p>クリティカル・シンキングとは、日常の言葉を用いた論証(argument)の論理構造を分析しその論証の良しあしを評価し、さらに、論理的に正しい優れた論証を自ら構成する能力を養うことを目的とするものです。そのような特性から、取り扱うジャンルは法律、政治、科学、ジャーナリズム、社会科学など多岐に渡り、どの専攻の学生でも習得するに値する教養の一部です。前期の基礎編では、論証分析と評価の基本的な手法を学び、後期の応用編では、その手法を様々な形式の論証に適用する方法を学びます。その過程で、誤った論証の代表的な形式や、定義・真偽・演繹・帰納などの論理学の基本的な概念も学びます。この授業で学ぶ事柄は、エッセイライティング、プレゼンテーション、ディスカッションの力を磨くうえでも非常に重要な基礎となるものです。論理的なコミュニケーション力の総合的な向上を目指す人は、是非受講してみてください。</p>				
【授業計画】				
<p>1. クリティカル・シンキングとは何か?(スタートアップ授業)</p> <p>2. 論証と説明</p> <p>3. 結論と前提</p> <p>4. 論証の構造分析その1</p> <p>5. 論証の構造分析その2</p> <p>6. 言語と言葉の曖昧さ</p> <p>7. 定義の種類</p> <p>8. 確認テストその1</p> <p>9. 論証を評価するための方法</p> <p>10. 論証の前提の評価その1</p> <p>11. 論証の前提の評価その2</p> <p>12. 論証の導出の評価その1</p> <p>13. 論証の導出の評価その2</p> <p>14. 総合演習</p> <p>15. 確認テストその2</p>				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
26	ミクロの生物科学 <small>(生命の出現から現代の気候変動までを知る)</small>	中川 裕之	4月14日(木)～7月14日(木) 毎週木曜日および5月7日(土)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	9:00～10:30
28				10:40～12:10
開講年次	1年次～	15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。		

【概要】

生命の基本単位は細胞であることから、細胞の集団である組織や個体さらには個体の集団で起こる生物科学的な現象は、「マクロの生物科学」と言える。そこで本講義は、まず生命の出現に関する最新の知見から始める。次に、多数の細胞で構成された個体を維持するしくみについて、ホルモンを介して体内環境を一定に保つ内分泌系、外的環境の変化に反応するための神経系、そして異物の体内への侵入と増殖を防ぐ免疫系を例として紹介する。また、それらのしくみをモデル化し原理の理解を試みるシステムバイオロジーも紹介する。さらに、生物である人間の活動が環境に与えている影響を、気候変動と生物多様性の関わりから紹介する。最後に、生物のもつ様々な機能を模倣し、日常生活に役立つ製品を開発する工学分野であるバイオミメティクスを紹介する。

以上の講義を通して、受講学生が生物と環境の関わりを基礎的な理解を得ることを目標としている。

【授業計画】

1. シラバスの説明とイントロダクション(スタートアップ授業)
 2. 地球における生命誕生と進化のシナリオ: 科学史
 3. 地球における生命誕生と進化のシナリオ: 生命を構成する有機低分子
 4. 生命現象を読み解くシステムバイオロジー: 科学史
 5. 生命現象を読み解くシステムバイオロジー: 生命現象の解析
 6. ホルモンによる生体機能の巧みな調節システム: 科学史
 7. ホルモンによる生体機能の巧みな調節システム: ホルモンの調節機構
 8. デジタル信号とアナログ信号を使い分ける神経系: 科学史
 9. デジタル信号とアナログ信号を使い分ける神経系: 神経系の構造と機能
 10. 無限の敵を打ち負かす免疫のからくり: 科学史
 11. 無限の敵を打ち負かす免疫のからくり: 免疫のしくみ
 12. 全地球的気候変動による生物多様性の危機: 科学史
 13. 全地球的気候変動による生物多様性の危機: 気候変動と物質循環
 14. 生物から学ぶバイオミメティクス: 科学史
 15. 生物から学ぶバイオミメティクス: バイオミメティクスの実例
- (2～15については、必要に応じて講義内容の順序が入れ替わることがある。)

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
27	西洋教育史	勝山 吉章	4月14日(木)～7月14日(木) 毎週木曜日および5月7日(土)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	10:40～12:10
開講年次	1年次～			

【概要】

私たちは一定の年齢に達したなら小学校へ行き、中学・高校へと進めることを当然のこととしてとらえている。学校には教室があり、教師がいて教科書がある。高校の卒業=大学入学資格であり、誰もが教育を受ける権利を有する。

だが、今日私たちが「当然」と思っている教育という営みも、数百年前までは夢想さえされなかったことが多い。富める親の子どもと、貧しい親の子どもが機会を並べるために、人類は数世紀にわたる歳月を費やした。

また、歴史の新しい担い手が常にそうであるように、教育史上においても新しい教育の探求者は常に迫害と抑圧のなかにおかれた。

本講義では、このように私たちに「当然」ととらえている教育を、その起源にまで遡って論じるものである。そのなかでとくに、大学の誕生や教養教育(リベラル・アーツ)がどのような経緯で生まれてきたのかを知ることによって、大学で学ぶ意味を考えていきたい。

【授業計画】

1. ガイダンス(スタートアップ授業)
2. 古代ギリシャの教育
3. ソクラテス・プラトン・アリストテレスの教育思想
4. 古代ローマの教育
5. 中世僧院の教育
6. 大学と都市国家の誕生
7. ルネッサンスと教育
8. 宗教改革と教育
9. 科学革命と教育
10. ルソーの教育思想
11. コンドルセの教育思想
12. ベスタロッチの教育思想
13. ヘルバルトの教育思想
14. フレーベルの教育思想
15. まとめ

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時間
29	統計入門 (もう一度、平均について考える。)	杉方 郁夫	4月14日(木)～7月14日(木) 毎週木曜日および5月7日(土)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	10:40～12:10
開講年次	1年次～			

【概要】

近年、統計分析を用いた記事・ニュースをテレビ・新聞・雑誌等で目にする機会が増えている。また、統計分析の対象となる分野も自然科学から、より日常生活との関連の深い人文・社会科学へと拡大し、これからの社会人にとって、統計学の基礎知識を持つことは適切な社会認識を形成する為に欠かせない要素になっている。一方、コンピュータの発達と普及により、殆どのコンピュータに用意されている一般的なソフトウェアだけで基本的なデータ処理が可能になり、この意味でも統計の考え方・手法を必要とする機会が多くなっている。

この講義では、大別して、次の2つのテーマについて学ぶ。
 (1) まず、最も身近な代表値である平均値について再考し、次に、平均値と併せて用いられる分散・標準偏差等のデータのばらつきを表す統計値について学ぶ。ここでは、データのもつ情報の内容と量(内容の価値の大きさ)という統計分析の基礎的観点からこれらの値を理解することが目的となる。また、中央値や箱ひげ図についてもこれらと対比して学び、様々な統計量の適切な使い分け方を身に付ける。

(2) 新聞の世論調査で、ある意見を支持する人の比率は調査した人の52%であった。これを見て読者の多くは、世の中の52%の人が支持していると考え。このように一部の調査結果から全体について類推するとき、52%という数値がどの位信頼できる値であるのか、支持が50%より少ない可能性はどれだけあるのかといった問題を分析する方法を学ぶ。

特に、(2)で述べた推測統計の基礎となる確率や確率変数の理論は難解である。この講義では、これらの問題について学ぶ際や、基本的な統計学のアイデアを理解する場合にも、難しい数式による証明をできるだけ避けて、数値実験やデータ処理の実習を通じたより実用的な理解を目指す。

【授業計画】

- 1 統計の歴史と統計教育の現状(スタートアップ授業)
- 2 データの分布(現代におけるデータ記述の目的とは?)
- 3 中心を表す代表値(平均と中央値)
- 4 散布度を表す値(分散・標準偏差と分位範囲・平均偏差)
- 5 二つの統計学(分析の目的に応じた使い分け)
- 6 分析の進め方(情報を効率的に取り出す)
- 7 分布の形の分析(異なる分析の例と箱ひげ図)
- 8 データ平均の分布(サイコロによる数値実験)
- 9 中心極限定理(推測統計の基本定理)
- 10 正規分布(もつと役立つ結果を出せる設定)
- 11 仮説検定(仮説は否定するために立てる)
- 12 仮説検定(推測できることの限界を知る)
- 13 点推定(経験や直感正しい)
- 14 区間推定(データを取る前に考える)
- 15 比率データの推測統計(比率と平均の類似点と相違)

No.	科目名	講師名	期 間	時間
30	英語音声学B	山田 英二	9月19日(月)～12月26日(月) 毎週月曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回) ※9月19日(祝)敬老の日は授業が行われず。	13:00～14:30
開講年次	2年次～			

【概要】

音声学は、いわゆる言語学の主要な一分野を形成しています。音声学の主な目的は音声言語に関するいろいろな事象を研究・解明することにあります。音声は言語には欠くことのできないものですが、音声学の知識は、ある言語を理解し研究する場合、必須のものといえるでしょう。

この講義では、「一般音声学」の観点から音声学の基礎的事項を説明すると共に、英語という「個別言語」に光をあて、その音学的・音韻的特徴を明らかにしていきます。

前期に続く本講義では、調音音声学の講義を行った後、音響音声学を中心にして講義と実習を行います。ここでは、様々な音声現象が物理的に解明されると共に、音響分析装置およびフォルマントなどについての講義が行われます。更には、Praatという音響分析装置の使い方を学びます。

【授業計画】

- 第1回:後期授業へのIntroduction(音響音声学、Praatの導入と設定)(スタートアップ授業)
- 第2回:語と句(1) Intonation+小レポート
- 第3回:語と句の発音練習(1) Intonation+小レポート
- 第4回:語と句(2) Given information, Old information, [+falling], [+rising]+小レポート
- 第5回:語と句の発音練習(2) Given information, Old information, [+falling], [+rising]+小レポート
- 第6回:音波(1) Physical sound+小レポート
- 第7回:音波(2) Oscillograph, Spectrograph+小レポート
- 第8回:フォルマント(1) Vowels: 1st Formant, 2nd Formant, etc.+小レポート
- 第9回:フォルマント(2) Consonants+小レポート
- 第10回:サウンドスペクトログラム(1) Voiced, Bilabial, Alveolar+小レポート
- 第11回:サウンドスペクトログラム(2) Velar, Retroflex, Stop+小レポート
- 第12回:サウンドスペクトログラム(3) Fricative, Nasal, Lateral, Approximant+小レポート
- 第13回:Praatにて実習(1) 設定+小レポート
- 第14回:Praatにて実習(2) 録音・分析+小レポート
- 第15回:締め

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時間
31	フランス語学概論B	川島 浩一郎	9月19日(月)～12月26日(月) 毎週月曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回) ※9月19日(祝)敬老の日は授業が行われず。なお、9月19日、12月19日、12月26日はお申込みできません。	16:20～17:50
開講年次	3年次～			
【概要】				
<p>フランス語を学習する過程で「なぜ?」という疑問を感じた経験が、誰にでもあるのではないのでしょうか。この「なぜ?」を大切に、フランス語の理解にもう一步深く踏み込むことが、この授業の目的です。いわば、フランス語を単に「習得」するだけの段階から、それを「考察」の対象とする段階への橋渡しをする授業です。ちなみに「フランス語学」は、linguistique française の翻訳で、フランス語を対象にした言語学を意味します。</p> <p>授業ではフランス語学の基本概念について概説していきますが、テキストの講読一辺倒という形はとりません。また一方的な講義でもなく、問題演習や個人あるいはグループでの口頭発表を随時求めます。</p> <p>具体的な内容については「授業計画」を参照してください。具体例を観察・分析しながら、全体で議論をしていきます。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(スタートアップ授業) 2. 口頭発表の内容と日程、音声学と音韻論(1) 3. 音声学と音韻論(2) 4. 形態音韻論 5. 記号論(1) 6. 記号論(2) 7. 意味論(1) 8. 意味論(2) 9. 意味論(3) 10. 統辞論(1) 11. 統辞論(2) 12. 統辞論(3) 13. 統辞論(4) 14. 社会言語学 15. まとめ 				
No.	科目名	講師名	期 間	時間
32	ヨーロッパ表象文化特講B	ゴツィック・マーレン	9月20日(火)～12月20日(火) 毎週火曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	9:00～10:30
開講年次	3年次～	15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。		
【概要】				
<p>美術作品や建築を通して「ヨーロッパの中のドイツ」を理解するのがこの授業の目的です。「ドイツ」とは何か。現在の地図を見れば、ドイツ連邦共和国という国があり、その地域に住んでいる人は「ドイツ人」と単</p> <p>純に考えがちかも知れませんが、歴史的に見ると答えは簡単ではありません。ヨーロッパの真ん中にある現在ドイツと呼ばれている地域が、周りからの影響を受けながら存在してきましたが、ずっと共通するのは言葉だけと言ってもいいのです。国家としてドイツが登場したのは1871年で、まだ150年間の浅い歴史です。</p> <p>この授業で絵画・彫刻・建築を時代に沿って考察していきます。その背景にある社会や文化を知ることが不可欠なので、常にそれをいっしょに学んでいきます。できる限り多くの時間を美術作品の考察に使えるよう、教科書や指示された資料をよく読んでから授業に臨んでください。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1 初めに: 授業の進め方・成績評価・授業上の注意点の説明・近代以降の美術について(スタートアップ授業) 2 写実主義・観念論 3 印象派 4 アール・ヌーヴォー 5 表現主義 6 ドイツ帝国の社会 7 ダダ 8 ヴィマルの社会 9 新即物主義 10 パウハウス 11 シュルレアリスム 12 ナチと美術 13 二つのドイツの社会 14 現代美術へ 15 まとめ 				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
33	ヨーロッパ地域文化特講B	田口 武史	9月21日(水)～12月21日(水) 毎週水曜日および令和5年1月11日(水)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	10:40～12:10
開講年次	3年次～	15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。		
【概要】				
<p>西洋教育思想をとおして、ヨーロッパ文化圏の特性およびその変化を洞察します。</p> <p>教育思想の根本には、「学ぶ」「知る」「教える」とはどういうことなのかという原理的問いがあります。これらの問いに答えるべく提起される教育論には、したがって、その思想家の／その時代の理想とする人間像・社会像が色濃く反映されていると考えられます。同時にまた、そうした理想の実現を阻む要因に対する批判や改善策、あるいは妥協も含まれるでしょう。つまり教育思想とは、人間の知的営為が個人と社会においてどのようにイメージされているかを端的に示すものであり、それゆえ当該の文化を知る格好の対象となりうるのです。</p> <p>以上の観点に立ち、個別的教育論を、誰が、誰を、何を、何の目的で、どのように教育するか、といった視点で分析的に把握したのち、時代状況・思想潮流と照らし合わせて理解を深めます。重要なポイントについては原典も参照します。さらに日本のアクチュアルな教育問題も視野に入れ、それを西洋における古今の教育論をふまえて検討することで、学習対象を具象的に捉えるよう努めます。</p> <p>できる限り多くの時間を考察に使えるよう、教科書や指示された資料をよく読んで授業に臨んでください(授業の初めに、予習確認の小テストを課します)。また授業の終わらないし授業後には、コメントを提出してもらいます。コメントには、学習内容を敷衍させた見解を書いてもらいます。また皆さんの書いたコメントの一部は、次回授業時に取り上げて学習事項を振り返るとともに、議論の契機とします。</p>				
【授業計画】				
1: スタートアップ授業(シラバスに関する説明と授業の進め方・前期ヨーロッパ地域文化特講Aの振り返り) 2-5: 第5章 近代国家と国民教育の時代 6-9: 第6章 新教育運動の時代 10-14: 第7章 現代の学校制度と教員養成 15: 第8章 現代の教師と教員養成				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
34	英語音声学B	竹安 大	9月22日(木)～12月22日(木) 毎週木曜日および令和5年1月5日(木)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	16:20～17:50
開講年次	2年次～			
【概要】				
<p>この講義では、音声学・音韻論における様々な概念を解説し、音声学・音韻論における分析の枠組みを用いて英語の発音の特徴を明らかにしていきます。後期は、前期に学んだ調音音声学の知識を基礎として、音響音声学および知覚音声学における分析手法を学び、英語の発音の特徴を客観的に把握する力を身に付けます。英語の発音の特徴をより深く理解することができるよう、英語だけでなく普段無意識に使っている日本語についても分析対象とします。</p>				
【授業計画】				
1. スタートアップ授業: 導入、音響分析ソフト(praat)のインストール、設定／課題① ※授業週開始までにスタートアップ授業動画を視聴し、授業の進め方等を把握し、課題に取り組んでください。第2回以降は、下記の内容を学習します。 2. 音響分析の基礎①: 音響分析ソフトの使い方、課題② 3. 音響分析の基礎②: 持続時間の測定、課題③ 4. 音響分析の基礎③: 基本周波数の測定、課題④ 5. 音響分析の基礎④: 音の強さの測定、課題⑤ 6. 音響分析の基礎⑤: 母音のフォルマントの測定、課題⑥ 7. 音響分析の基礎⑥: 子音(共鳴音)のフォルマントの測定、課題⑦ 8. 音響分析: 応用編、課題⑧ 9. 平均の比較方法: t検定、課題⑨ 10. 知覚実験の基礎①: 持続時間の操作、課題⑩ 11. 知覚実験の基礎②: 基本周波数の操作、課題⑪ 12. 知覚実験の基礎③: 知覚実験の手法 13. 知覚実験の基礎④: 知覚実験実施における留意点 14. 知覚実験の基礎⑤: 知覚実験のデザイン、知覚実験の実施 15. 知覚実験の基礎⑥: 知覚実験結果の分析、課題⑫				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
35	ヨーロッパ言語文化概論B	堺 雅志	9月30日(金)～12月23日(金) 毎週金曜日および令和5年1月6日(金)・1月12日(木)・FUプラスアップ授業1回(全15回) ※11月4日(金)は学園祭に伴い休講です。	14:40～16:10
開講年次	3年次～			
【概要】				
<p>ライン河の言語文化</p> <p>ライン河を主人公に据え、ドイツ語とフランス語の対立、影響、共存の関係を地理的、歴史的に考察します。その際、源流を持つスイス、河口域のネーデルラントも考察対象とします。</p> <p>第一に、古代ローマとガリアとゲルマンの関係から、ドイツ語圏とフランス語圏に分かれてゆくさまを眺め、第二に、ライン河に纏わる伝説の伝播を概観します。第三にアルザス(エルザス)地方を例に、近世から現代までの「言語戦争」のありさまを文学作品なども参照しながら検証します。そして最後にドイツ語とフランス語が共存する現在の状況について考えてゆきます。</p> <p>ライン河を言語的に辿ることを通じて、独仏両文化に受講者自身にとつての「橋」を渡してみましよう。</p>				
【授業計画】				
1 オリエンテーション(スタートアップ授業) 2 ライン河源流のはなし 3 古代ローマとガリアとゲルマン 4 ライン河をめぐる伝説 5 ニーベルンゲン 6 ローレイ 7 アルザスとエルザス 8 ライン河とルネサンス 9 ナポレオンとライン河 10 ユーゴ『ライン河幻想紀行』 11 ドーデ『最後の授業』 12 二十世紀の言語戦争 13 ジンメル『橋と扉』 14 現在のライン河 15 これからのライン河-討論とまとめ				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時間
36	人間関係論B	渡邊 淳一	9月21日(水)～12月21日(水) 毎週水曜日および令和5年1月11日(水)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	10:40～12:10
開講年次	3年次～			

【概要】

今日の社会では人間関係の重要性は十分に認識され、カウンセリングやコーチングなどの実務が多くの企業や組織において必要不可欠なものとなっています。この講義は人間関係論をケーススタディとして、企業経営者を中心とした実務家の方々によるオムニバス形式により、現場に則した観点から展開していきます。

この講義に共通するテーマは「モチベーション(=やる気)」です。組織の中では人間関係や役割の与え方、やりがいの感じ方でモチベーションが上がったり下がったりします。また、そうした周囲から与えられる環境だけでなく、自分でモチベーションを上げていくことはこれからの時代を生きていくうえでとても重要になります。

モチベーションを高い水準で維持することができれば、自分の能力を十分に発揮できるだけでなく、「人をどう取り纏めれば力を最大限発揮してくれるか」という問題にも対処できるようになります。こうしたことに少しでも関心のある人、特にサークルで人を束ねる立場にいる人、アルバイトなどでリーダーを任されている人、リーダーをサポートする立場にいる人には非常に学びの多い講義になると思います。この講義で学ぶことによって、あなたが近い将来社会に出たときに「自分は何を期待されているのか」「どう行動すればよいのか」をスムーズに理解でき、組織を担い頼りにされる人材に成長できると思います。

この講義で学んだことを知識として身につけるだけでなく、実践することで自分の成長につなげてください。それが学生諸君が自ら道を切り開く鍵となるはずですよ。

【授業計画】

① スタートアップ授業 「アカデミック・インテグリティ」	⑨ 11/9 包行良光・(株)筑水キャニコム取締役社長 「ものづくりは演歌だ、全てはお客様のために」
② 9/21 前田拓邦・社会保険労務士法人プロフェス代表 「社会保険労務士の職務」	⑩ 11/16 渡邊淳一 「ゲスト講師:緒方大助・(株)マイスタヴェルク取締役」
③ 9/28 古賀正博・一般社団法人福岡中小企業経営者協会常務理事 「出会い力」	⑪ 11/30 渡邊淳一 「ゲスト講師:鈴木啓之・シロアム教会牧師」
④ 10/5 渡邊淳一 「TBA」	⑫ 12/7 井上泰寿・(有)ウエル総合企画代表取締役社長 「夢はつかみ取り:いつからだって何だって夢はなくとも起業はできる」
⑤ 10/12 藤本亨・西部ガスリビング(株)代表取締役社長 「職場の人間関係」	⑬ 12/14 山崎信二・(株)ブルーム代表取締役社長 「地域産業の連携:唐津コスメティックパレーの事例を通して」
⑥ 10/19 渡邊淳一 「ゲスト講師:塚崎ひとみ・(株)ベストオフィスクリエーション代表取締役会長」	⑭ 12/21 飯田剛也・(株)タウンズポスト代表取締役社長 「公益資本主義」
⑦ 10/26 筑前りょう太・NPO法人九州プロレス理事長 「プロレスを通じての不登校児・ニート対策や老人ホーム・障がい者施設慰問」	⑮ 1/11 渡邊淳一
⑧ 11/2 渡邊淳一 「ベンチャー企業と社員教育」	

No.	科目名	講師名	期 間	時間
37	ベンチャー起業論B	阿比留 正弘	9月30日(金)～12月23日(金) 毎週金曜日および令和5年1月6日(金)・1月12日(木)・FUプラスアップ授業1回(全15回) ※11月4日(金)は学園祭に伴い休講です。	10:40～12:10 13:00～14:30
開講年次	1年次～			

2時限連続の講義です。
この講義の受講を計画している学生は、YouTubeで「ベンチャー起業論2022」と「履修説明」で検索して出てくる動画を見た上で、受講すること。
また、ベンチャー起業論のホームページもよく見ておいてください。http://www.venture.econ1.fukuoka-u.ac.jp/

【概要】

最近、大学は卒業し就職したけれど、2・3年で辞めてしまう人がとても多いと言われています。これは、学生が考える企業と企業の実態が異なり、双方のミスマッチが原因と思われる。「ベンチャー起業論」では、受講生全員にインターンシップを義務付け、学生時代に企業の経営者や社員・取引先などと交流することでミスマッチが起こらないように配慮しています。

優秀な企業経営者は、生き生きと仕事を楽しみ、常に目標を設定し、人生の目的を高く掲げて活動しています。そのような素晴らしい企業経営者の講義を聞き、企業にインターンシップに行くことで企業経営者の魅力的な生き様を間近に見てください。そしてなりたい自分を発見して欲しいと思っています。

この講義は、企業経営者の講義を聞く座学とインターンシップを基本とするプロジェクト活動の実学から成り立ちます。

各回の講師については右の講義計画を見てください。プロジェクトでは、企業にインターンシップに行き企業研究を行い、成果報告として「ビジネスプランコンテスト」のイベントを持ちます。

プロジェクトは、具体的には、茶道の干利休が残した「守・破・離」の考えで進めていきます。まず、「守」としてインターンシップ先の企業についての現状把握を行います。経営者の考え、社員、商品の魅力を徹底的に明らかにします。そして「破」では、現状分析で学生が発見する違和感・問題点の分析をおこないます。そして「離」で、オリジナリティーをもって、自らのビジネスプランを構築します。この「ベンチャー起業論B」では破離までをカバーします。

この講義はプロジェクト活動が全員に義務付けられております。講義時間だけでなく、多くの課外活動が必要となります。

【授業計画】

1. ベンチャー起業論を受講する前に (スタートアップ授業)	⑨12-13. 11月11日/久恒 兼孝 トヨタカラー博多(株) 代表取締役社長 「日本の未来と自動車産業」	23-24. 12月16日/阿比留 正弘 「ホスピタリティビジネスの産業化」 ゲスト講師:菊地 唯夫 (ロイヤルホールディングス(株) 代表取締役会長)
2-3. 9月30日/阿比留 正弘 「劣等生からの起業」	14-15. 11月18日/白川 正芳 ㈱楠本浩総合会計事務所 代表取締役 「中小企業の問題を価値に転換するM&A」	25-26. 12月23日 大野 祐子 ㈱ビジネスリファイン 代表取締役社長 「教養(Culture)と教育(education)」
4-5. 10月7日/中村 典義 ㈱クロフネプライダル 代表取締役 「しあわせをつくる」	16. 前半のまとめ(中間フォローアップ授業)	27-28. 1月6日/杉岡 世邦 ㈱杉岡製材所 代表取締役 「日本の森林 宝の山」
6-7. 10月14日/阿比留 正弘 「仕事は、相手をどれだけ喜ばせるかで決まる」 ゲスト講師:中村 文昭(㈱クロフネカンパニー 代表取締役社長)	17-18. 11月25日/阿比留 正弘 「石の上にも30年」 ゲスト講師:二枝 たかはる(㈱FUTAEDA代表取締役)	29-30. 1月12日(木)/阿比留 正弘
8-9. 10月21日/河邊 哲司 ㈱久原本家グループ本社 代表取締役社長 「こだわりのものづくり」	19-20. 12月2日/二木 清彦 ㈱KBCメディア 取締役会長 「炎の営業マン」	
10-11. 10月28日/阿比留 正弘 「企業経営とM&A(序の口)」 ゲスト講師:原口 直道 (㈱BulePlanet-Works 取締役)	21-22. 12月9日/森 君夫 KBC九州朝日放送(株) 常務取締役	

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時間		
38	会計学総論	長束 航	9月21日(水)～12月21日(水) 毎週水曜日および令和5年1月11日(水)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	13:00～14:30		
開講年次	2年次～	会計を理解するため簿記の知識がある程度必要となります。				
【概要】						
<p>会計とは、ある経済主体に関する経済事象を、主として貨幣額で測定し、それを記録・整理して作成した情報(会計情報)を、当該経済主体の利害関係者に報告する一連の行為をいう。この会計という行為を研究対象とする学問が、会計学である。</p> <p>会計は、個人という小さい単位から国家という大きい単位まで様々な経済主体によって行われており、それぞれ重要な役割を果たしているが、特に企業において会計が果たしている役割は、どんなに大きく評価してもしすぎることはない。経営意思決定、財産管理、資金調達、人事考課、配当可能額の算定、課税所得の計算など、あらゆる場面で会計情報が利用される。企業会計が、「ビジネスの言語」と称されることがあるのも、あながち大げさな表現というわけではない。</p> <p>したがって、会計学も企業会計を研究の対象とすることが多く、この講義でも企業会計を中心として取り扱う。なお、企業会計の研究分野は、企業外部の利害関係者(投資家、株主、銀行、税務署など)に対して報告される会計情報を研究対象とする「財務会計論」という分野と、企業内部の利害関係者(経営者など)に対して報告される会計情報を研究対象とする「管理会計論」という分野に大別される。この講義では、やや「財務会計論」の分野を重視した講義を行うが、それは企業会計が、最終的には企業外部の利害関係者向けの内容・形式で会計情報を作成しなければならないという制約のもとで行われているからである。</p> <p>この講義は、皆さんが会計学を学び始めるにあたって、まず知っておくべき会計学という学問の全体像を理解してもらうためのものである。「財務会計論」、「管理会計論」、「監査論」、「税務会計論」、「経営分析論」その他の会計諸学を専攻するための基礎としてはもちろん、昨今、社会で強く求められるようになってきている「数字の読めるビジネス・パーソン」をめざすための第一歩として、ぜひ履修してほしい。</p>						
【授業計画】						
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 会計および会計学の意義と種類(スタートアップ授業) 2 財務会計の制度的フレームワーク① 金融商品取引法会計 3 財務会計の制度的フレームワーク② 会社法会計 4 財務会計の制度的フレームワーク③ 会計基準 5 財務会計の制度的フレームワーク④ 財務諸表監査制度 6 財務会計の理論的フレームワーク① 会計公準と概念フレームワーク 7 財務会計の理論的フレームワーク② 企業会計原則の一般原則 8 財務会計の理論的フレームワーク③ 財務会計の目的と会計情報の質的特性 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9 財務会計の理論的フレームワーク④ 資産負債アプローチと収益費用アプローチ 10 財務会計の理論的フレームワーク⑤ 資産概念と資産の測定 11 財務会計の理論的フレームワーク⑥ 負債概念と負債の測定 12 財務会計の理論的フレームワーク⑦ 純資産と資本維持概念 13 財務会計の理論的フレームワーク⑧ 収益および費用の意義と計上基準 14 財務会計の理論的フレームワーク⑨ 財務報告—財務諸表と非財務情報 15 管理会計と財務諸表分析 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1 会計および会計学の意義と種類(スタートアップ授業) 2 財務会計の制度的フレームワーク① 金融商品取引法会計 3 財務会計の制度的フレームワーク② 会社法会計 4 財務会計の制度的フレームワーク③ 会計基準 5 財務会計の制度的フレームワーク④ 財務諸表監査制度 6 財務会計の理論的フレームワーク① 会計公準と概念フレームワーク 7 財務会計の理論的フレームワーク② 企業会計原則の一般原則 8 財務会計の理論的フレームワーク③ 財務会計の目的と会計情報の質的特性 	<ol style="list-style-type: none"> 9 財務会計の理論的フレームワーク④ 資産負債アプローチと収益費用アプローチ 10 財務会計の理論的フレームワーク⑤ 資産概念と資産の測定 11 財務会計の理論的フレームワーク⑥ 負債概念と負債の測定 12 財務会計の理論的フレームワーク⑦ 純資産と資本維持概念 13 財務会計の理論的フレームワーク⑧ 収益および費用の意義と計上基準 14 財務会計の理論的フレームワーク⑨ 財務報告—財務諸表と非財務情報 15 管理会計と財務諸表分析
<ol style="list-style-type: none"> 1 会計および会計学の意義と種類(スタートアップ授業) 2 財務会計の制度的フレームワーク① 金融商品取引法会計 3 財務会計の制度的フレームワーク② 会社法会計 4 財務会計の制度的フレームワーク③ 会計基準 5 財務会計の制度的フレームワーク④ 財務諸表監査制度 6 財務会計の理論的フレームワーク① 会計公準と概念フレームワーク 7 財務会計の理論的フレームワーク② 企業会計原則の一般原則 8 財務会計の理論的フレームワーク③ 財務会計の目的と会計情報の質的特性 	<ol style="list-style-type: none"> 9 財務会計の理論的フレームワーク④ 資産負債アプローチと収益費用アプローチ 10 財務会計の理論的フレームワーク⑤ 資産概念と資産の測定 11 財務会計の理論的フレームワーク⑥ 負債概念と負債の測定 12 財務会計の理論的フレームワーク⑦ 純資産と資本維持概念 13 財務会計の理論的フレームワーク⑧ 収益および費用の意義と計上基準 14 財務会計の理論的フレームワーク⑨ 財務報告—財務諸表と非財務情報 15 管理会計と財務諸表分析 					
【授業計画】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(スタートアップ授業) 2. ゲーム産業の産業構造 3. 技術トラジェクトリーと日欧ゲームの異動 4. ゲームビジネスのマクロ的視点とミクロ的視点-schoo① 5. デジタルゲームのビジネスとゲームを作ること-schoo② 6. eスポーツがもたらすニューノーマルな社会-schoo③ 7. ゲーム産業のパワーシフト-schoo④ 8. ゲームビジネスのリアルと経営学の接点にある理論の発展可能性-schoo⑤ 9. 3つの方向性から導く、ゲーム企画の考え方～いかに新たなユーザーを獲得するか-schoo⑥ 10. ゲームを企画してみよう～アイデア発散ワークショップ-schoo⑦ 11. UX視点でゲームのビジネスを捉えよう～講義とワークショップ-schoo⑧ 12. ゲーム企画を企画書まで落とし込もう～グループ別ワークショップ-schoo⑨ 13. ゲーム企画ワークショップの発表と講評(1)-受講生同士での講評 14. ゲーム企画ワークショップの発表と講評(2)-shoo⑩ 15. まとめ 						

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時間
40	地球環境工学	鈴木 慎也	9月21日(水)～12月21日(水) 毎週水曜日および令和5年1月11日(水)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	10:40～12:10
開講年次	2年次～	15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。		
【概要】				
<p>1980年代以降、「環境」は科学界ばかりか政治・メディアの世界でも大きな話題になっている。二酸化炭素CO₂が地球を温めるとか、フロン(クロロフルオロカーボン)が成層圏のオゾンを壊すとか、散乱ごみがマイクロプラスチックとなって海洋を汚染させるとか、国境を越え地球全体に及ぶ現象が議論の的である。一方で極地汚染もまだ残る。埋立地からしみ出た物質が飲み水を汚す、といった話は、今や誰もが知っている。だからこそ、現象を科学的な視点で捉えることが重要である。中でも化学反応の絡む現象として、環境と化学の関わり合いの理解が欠かせない。自然界の壮大な営みが今どのように進み、太古からどう進んできたのをつかんで初めて、人間が自然をどれだけ乱しているのかが分かる。</p> <p>本講義では色々な環境問題を考える前に、我々を取り囲む気圏・水圏・地殻・土壌・生物圏とは、どのような物質がどうからみ合う場なのかを、科学(化学)的な視点で学習する。その分、日本国内における環境問題やその歴史に対する説明は必ずしも十分とは言えない。1年次に開講される環境工学概論と合わせて環境問題を理解する姿勢が望ましい。なお、大半の学生にとって化学はほぼ初學者に等しいことを前提に、ごく基本的な内容も含めて解説を加えながら講義を行う。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスの説明およびイントロダクション(スタートアップ授業) 2. 変わりゆく地球 地球をまるごと考える・炭素の循環 3. 変わりゆく地球 炭素の循環(地球全体のCO₂収支) 4. 変わりゆく地球 炭素の循環(CO₂が増えるとか何が起るか) 5. 変わりゆく地球 硫黄の循環 6. 変わりゆく地球 残留性有機汚染物質(POPs) 7. 大気化学 大気の成り立ち・定常状態と平衡状態 8. 大気化学 自然の営みが生む大気成分・微量気体の化学反応 9. 大気化学 都市の大気汚染 10. 大気化学 大気汚染と健康・害・汚染物質の退場ルート 11. 大気化学 成層圏の化学 12. 陸水の化学 元素の溶けやすさ 13. 陸水の化学 陸水のイオン組成を決めるもの 14. 陸水の化学 水の成分と生物活動 15. 陸水の化学 重金属汚染・地下水の汚染 				
No.	科目名	講師名	期 間	時間
41	半導体工学	名倉 徹	9月21日(水)～12月21日(水) 毎週水曜日および令和5年1月11日(水)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	10:40～12:10
開講年次	2年次～	15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。		
【概要】				
<p>スマホを始めとする電子機器において、その中心的役割を果たしているのが集積回路であり、その回路はシリコンを用いた半導体素子によって構成されている。本講義では、半導体の基本物性を理解し、最も基本的な半導体素子であるPN接合ダイオードおよびMOSトランジスタの動作原理を理解することを目的とする。集積回路の主役はトランジスタ素子であるが、今後学ぶことになるトランジスタを用いた回路設計や製造プロセスを学ぶ際の基盤となるべき知識を本講義で身につける。</p> <p>企業において研究開発に従事してきた実務経験を活かし、実際に携わった事例等を参考に、講義内容を取捨選択して実践的な講義を行う。講義内容は教科書プラスアルファとし、講義スタイルはノート講義を基本とする。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(スタートアップ授業) 2. 基本回路 3. 結晶中の電子の振る舞いその1 4. 結晶中の電子の振る舞いその2 5. 半導体中の電子とホールその1 6. 半導体中の電子とホールその2 7. 半導体中の電気伝導その1 8. 半導体中の電気伝導その2 9. PN接合その1 10. PN接合その2 11. PN接合その3 12. MOSトランジスタその1 13. MOSトランジスタその2 14. MOSトランジスタその3 15. MOSトランジスタその4 				
No.	科目名	講師名	期 間	時間
42	基礎電気磁気学	名倉 徹	9月22日(木)～12月22日(木) 毎週木曜日および令和5年1月5日(木)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	13:00～14:30
開講年次	1年次～			
【概要】				
<p>電気磁気学は電気回路・電子回路とともに電気系の基本的な重要科目であり、電気・電子機器の動作原理を理解するのに必須の科目である。電荷、電界と電位、静電容量、誘電体、電流と磁界、電磁誘導の法則などについて学習する。複雑な数式の利用をなるべく避けながら、物理現象を理解することに主眼を置く。マクスウェル方程式は2年次前半の「電気磁気学」にて学習する。</p> <p>企業において研究開発に従事してきた実務経験を活かし、実際に携わった事例等を参考に、講義内容を取捨選択して実践的な講義を行う。講義スタイルはスライド講義を基本とする。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(スタートアップ授業) 2. 概要および電磁気の数学 3. クーロンの法則と電界 4. 帯電導体の電界と電位 5. 静電容量その1 6. 静電容量その2 7. 誘電体 8. 電流 9. 電流と磁界 10. 磁界で働く力 11. 磁性体 12. 電磁誘導の法則 13. インダクタンスその1 14. インダクタンスその2 15. 過渡現象 				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
43	体力学	田中 守	9月19日(月)～12月26日(月) 毎週月曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回) ※9月19日(祝)敬老の日は授業が行われず。	9:00～10:30
開講年次	1年次～			
【概要】				
<p>体力という言葉に親しみのある人は多いであろう。「健康・体力づくり」「体カトレーニング」「日本選手は体力不足」などよく見聞きする。しかし体力とはどのように捉えられているのだろうか？競技力や健康とどのように関わるのか？体力は遺伝的に決まっているのだろうか？体力を効率よく高めるにはどうしたらよいか？さまざまな疑問が沸いてくる。もう少し具体的に書いてみよう。身体は適度に使うと機能が向上する。例えばかなり重いバーベルを何度か持ち上げると筋力がついてくることは誰もが知っている。しかしどの程度の重量をどれだけ繰り返して持ち上げれば良いのだろうか？一方使わないと筋力は低下する。低下をくい止めるには最低どの程度の負荷が必要なのだろうか？筋力が付くと身体にはどんな変化が起こっているのだろうか？どこまで高められるのだろうか？筋力と競技力、健康とはどのような関わりがあるのだろうか？このような疑問に答えるには身体の適応性ということを理解することが大切である。</p> <p>体力学を学ぶためには基本的な解剖生理学やスポーツ生理学の知識も欠かせないので、併せて学んでほしい。体力学を学ぶことは実際の健康づくりや競技力向上に欠かせないし、またすぐに役立つことが多い。身近な話題も交えて講義を展開していくつもりなので、授業中は活発な討議を期待している。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション(スタートアップ授業) 2 体力学を学ぶための基礎知識(筋系) 3 体力学を学ぶための基礎知識(神経系) 4 体力学を学ぶための基礎知識(呼吸循環系) 5 体カトレーニングの基礎理論 6 無氣的パワーとトレーニング 7 筋力・筋持久力とトレーニング 8 有氣的パワーとトレーニング 9 調整力・柔軟性とトレーニング 10 子供の体力とトレーニング 11 女性の体力とトレーニング 12 加齢と体力・トレーニング 13 高齢者の体力と介護予防 14 体カトレーニング計画の作成と立案 15 まとめ 				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
44	レジャー・レクリエーション総論	築山 泰典	9月30日(金)～12月23日(金) 毎週金曜日および令和5年1月6日(金)・1月12日(木)・FUプラスアップ授業1回(全15回) ※11月4日(金)は学園祭に伴い休講です。	13:00～14:30
開講年次	2年次～			
【概要】				
<p>「レジャーやレクリエーション」を論じる際、その背景に存在する「自由時間」との関係を考える必要がある。そのため、この言葉の意味はそれぞれの聞き手にとって日常の過ごし方によって異なり、また同じ人であってもライフステージ(幼児期から高齢期に至る6段階)によって変化するものである。必然的に「多様性を持った言葉である」との認識が必要となる。そして、このレジャー・レクリエーション活動の目指すところはそれぞれのライフステージに応じた「よりよい生活(QOL)の向上」であり、「よりよい健康(Wellness)」にあると考える。そのため、ウェルネスという言葉の理解も授業の中に組み込む。</p> <p>この講座を通じて、レジャー・レクリエーションに関する知見を深め、それを活かした「自身のライフスタイル向上」を考えてもらいたい。そして、「実践的に人に伝えていくことのできるレクリエーション指導者としての基盤を形成する」ことが本講座の目標となる。その為、講座の中盤では教育・福祉・地域活動それぞれの側面からレクリエーションの役割について具体的に言及し、「レクリエーションを通じた社会貢献の在り方」を考察していく。また、実際の企画運営時、必要となる「リスクマネジメント」に関して言及し、具体的な企画作成を行う。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1 レクリエーションの概念と目的【スタートアップ授業】 2 レジャーとレクリエーション 3 ウェルネスとレクリエーション I 4 ウェルネスとレクリエーション II 5 教育的側面からのアプローチ I 6 教育的側面からのアプローチ II 7 福祉的側面からのアプローチ I 8 福祉的側面からのアプローチ II 9 地域活動としてのレクリエーション I 10 地域活動としてのレクリエーション II 11 プログラムとイベント企画の留意点 12 リスクマネジメント 13 レクリエーション企画演習 I 14 レクリエーション企画演習 II 15 まとめ 				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
45	基礎数学 <small>(分析や判断に数学を生かす。)</small>	杉万 郁夫	9月19日(月)～12月26日(月) 毎週月曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回) ※9月19日(祝)敬老の日は授業が行われず。	10:40～12:10
開講年次	1年次～			
【概要】				
<p>高校まで学んできた数学を振り返って、自分にとっては余り役に立たないものと決めつけていませんか。この講義の目標は、いろいろな数学の生かし方を見ることです。もちろん、本格的に用いるためには、コンピュータを使った大量の計算が必要になることもあるのですが、そのアイデアを理解するには、工夫した表や図を作り、簡単な計算をすることで十分でしょう。</p> <p>さて、講義で扱う内容の中から、数回をかけて講義で説明する主なものを紹介しましょう。日常生活のどんなときに数学が使えるように感じますか。おそらく、一つは状況を理解するために数字を読むときでしょう。ここでは「分析の数理」と呼ぶことにします。また、何かをする方法が幾つかあって、その中からどれか良い方法を選ぶなければならないときがもう一つではないでしょうか。このような問題は、「判断の数理」ということにします。</p> <p>講義の最初に、「分析の数理」入門として、若い皆さんにとって大切な日本の人口データを一緒に読んでみましょう。最近、人口は減少し始めた。地方の過疎化が一段と進み限界集落が生まれ、少子高齢化も深刻です。よく知っているつもりでもデータから自分の力で読んでみると、新しい認識ができると思います。数学を生かすことの基本は、数字を読むことから始まります。「判断の数理」でとりあげるのは判断における「中庸(偏らないこと)」の大切さです。バランス感覚の大切さといってもいいでしょう。数学を使って行う判断では、良し悪しが明確なことが多いのですが、日常出会う状況では、偏りのない中位の判断が良いことしばしばあります。どのような場面がそうなのかについて紹介していきます。</p> <p>最後に、人が集まって形成する社会としての判断について考えます。もちろん、全員の意見を反映した判断が望まれますが、普通、使われている多数決でよいのでしょうか。最近、様々な組織で使われているちょっと目新しい投票システムとその良さを紹介しようと思っています。ここでは、コンピュータを用いたシミュレーションを生かして考えていきます。また、全体にとっては良い判断も、ある人の犠牲のもとにしか成り立たないとしたらといった個人を尊重した近代的価値観に基づく判断についても考えてみましょう。</p> <p>ともかく、様々な方法の中にあるアイデアを楽しんでください。方法を知ること以上に、目的に向かって使われている数学の姿を見てもらうことが大切です。世の中の仕組みにも多くの数学が使われていることが分かってもらえると思いますし、皆さんの日常の思考にも変化が起こるかもしれません。</p>				
【授業計画】				
<p>1) 数字を読む(分析の数理1)スタートアップ授業(動画) (変化を見るには、折れ線グラフ?)</p> <p>2) 変化を読むと見えてくる(分析の数理2) (大きい変化と小さい変化)</p> <p>3) 更なる分析を重ねるには(分析の数理3) (分析結果の除去)</p> <p>4) 今の変化の先にあるもの(分析の数理4) (未来予測から今を知る)</p> <p>5) 「分析の数理」のまとめ(分析の数理5) (いろいろな方法を併せて使う)</p> <p>6) 数理モデルを使って考える。 (文系の世界の数理モデル)</p> <p>7) あいまいな判断の良さ(判断の数理1) (選択肢を組み合わせた良さ)</p> <p>8) あいまいな判断の良さ(判断の数理2) (確率的な選択の良さ)</p> <p>9) あいまいな判断の良さ(判断の数理3) (社会におけるあいまいな選択の意味)</p> <p>10) 社会の判断方法(その1) (皆が納得する決定とは?)</p> <p>11) 社会の判断方法(その2) (身近な決定方法を考える)</p> <p>12) 数学を生かす楽しさを知る。 (コンピュータ・シミュレーションを使ってみよう。)</p> <p>13) 多数決を考える(その1) (みんなの意思をまとめるには)</p> <p>14) 多数決を考える(その2) (いろいろな決定方法)</p> <p>15) 多数決を考える(その3) (多数決に替わる決め方を考える)</p>				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
46	国際化と日本 <small>(ヨーロッパを知る-その多様性と統一-)</small>	辻部 大介	9月19日(月)～12月26日(月) 毎週月曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回) ※9月19日(祝)敬老の日は授業が行われず。	16:20～17:50
開講年次	1年次～			
【概要】				
<p>専門分野を異にする8名の教員が、おのおの1～2回の講義を担当し、地中海世界から北方ヨーロッパ、中央ヨーロッパにおよぶ各地域に、また、歴史、建築、美術、言語、宗教、スポーツ、政治、文学といった諸分野にまたがる、ヨーロッパの社会や文化の諸相を、学生の知的欲求にうったえうるさまざまな個別的事例に基づいて講ずる。現代ヨーロッパのみならず、現代ヨーロッパを作りあげる基盤となった古代、中世、ルネサンスといった過去の時代の社会や文化についてもとりあげる。個々の事象の例示にあたっては、日本との比較・対照をうながし、日本の社会や文化の現状に対する問いかけを動機づける。初回と終回の授業では、統括責任者2名が、各講義の連関および授業全体の意義について受講者それぞれが考察をめぐらすための視点を提供する。なお、東原の担当回(第12・13回目)においては、在オーストリア日本大使館専門調査員としての実務経験によって得られた、現代オーストリアの諸政治勢力の動向等に関する調査結果を活用した講義が行われる。</p>				
【授業計画】				
<p>1 シラバスの説明・オリエンテーション(スタートアップ授業)(辻部・堺)</p> <p>2 ヨーロッパの成り立ち—中世まで—(堺)</p> <p>3 中世のゴシック建築 フランスの大聖堂を中心に(太記祐一)</p> <p>4 建築文化のHUBとしての19～20世紀(太記)</p> <p>5 美術遺産とイタリア(浦上雅司)</p> <p>6 カトリック教会とイタリア(浦上)</p> <p>7 バルカン半島の歴史—ビザンツ帝国を中心に(西村道也)</p> <p>8 バルカン半島の歴史—オスマン帝国とユーゴスラビアを中心に(西村)</p> <p>9 中央ヨーロッパ: 言語、文字、宗教の交錯(富重純子)</p> <p>10 ドイツの地域生活とスポーツ(藤井雅人)</p> <p>11 スポーツ強国としてのドイツ(藤井)</p> <p>12 現代オーストリアの政治体制—成立と発展(東原正明)</p> <p>13 現代オーストリアの政治体制—ナショナリズムの台頭(東原)</p> <p>14 フランスの旧植民地: アルジェリア(辻部)</p> <p>15 講義のまとめと展望(辻部・堺)</p>				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
47	物理の世界 (大気科学)	高島 久洋	9月20日(火)～12月20日(火) 毎週火曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	13:00～14:30
開講年次	1年次～			
【概要】				
<p>主に地球規模・地域規模の大気科学現象、気象現象、大気環境問題(地球温暖化、オゾン層破壊、大気汚染などの人為的環境変動)について、現在の地球大気を維持している基本的な物理過程(力学、放射、熱力学)を軸に最新の研究成果を交えて講述する。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション: スタートアップ授業(動画配信) 2. スケール・単位 3. 太陽系における地球 4. 地球大気の組成・鉛直構造、循環 5. 太陽放射、地球放射 6. 温室効果 7. 地球の大気圧と静力学平衡 8. 地球の自転とコリオリの力 9. 雲と降水過程 10. 身近な気象現象、天気予報 11. 地表付近の気象、大気境界層、福岡平野における大気の循環 12. 成層圏の大気の循環、オゾン層破壊とオゾンホール 13. 大気汚染、PM2.5 14. リモートセンシング観測の基礎 15. まとめ 				
No.	科目名	講師名	期 間	時 間
48	論理学B	岩田 直也	9月20日(火)～12月20日(火) 毎週火曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	13:00～14:30
51				18:00～19:30
52			9月21日(水)～12月21日(水) 毎週水曜日および令和5年1月11日(水)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	14:40～16:10
開講年次	1年次～			
【概要】				
<p>クリティカルシンキングとは、日常の言葉を用いた論証(argument)の論理構造を分析しその論証の良しあしを評価し、さらに、論理的に正しい優れた論証を自ら構成する能力を養うことを目的とするものです。そのような特性から、取り扱うジャンルは法律、政治、科学、ジャーナリズム、社会科学など多岐に渡り、どの専攻の学生でも習得するに値する教養の一部です。前期の基礎編では、論証分析と評価の基本的な手法を学び、後期の応用編では、その手法を様々な形式の論証に適用する方法を学びます。その過程で、誤った論証の代表的な形式や、定義・真偽・演繹・帰納などの論理学の基本的な概念も学びます。この授業で学ぶ事柄は、エッセイライティング、プレゼンテーション、ディスカッションの力を磨くうえでも非常に重要な基礎となるものです。論理的なコミュニケーション力の総合的な向上を目指す人は、是非受講してみてください。</p>				
【授業計画】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な論証の種類(スタートアップ授業) 2. 演繹的論証の分析と評価その1 3. 演繹的論証の分析と評価その2 4. 帰納的論証の分析と評価その1 5. 帰納的論証の分析と評価その2 6. 科学的論証の分析と評価その1 7. 科学的論証の分析と評価その2 8. 確認テストその1 9. 類推的論証の分析と評価その1 10. 類推的論証の分析と評価その2 11. 収斂的論証の分析と評価その1 12. 収斂的論証の分析と評価その2 13. 総合的演習その1 14. 総合的演習その2 15. 確認テストその2 				

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時間
49	自然地理学 (気候区形成の仕組み)	林 政彦	9月20日(火)～12月20日(火) 毎週火曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	13:00～14:30

開講年次	3年次～
------	------

【概要】

我々は、地球上で生活している。生活には、個人的な活動、社会的な活動を伴う。それらの活動は、周囲の人々、社会、そして我々を取り巻く自然との相互作用の中で行われ、個々人の内面の形成にも影響を及ぼしている。この講義では、はじめに、このような人間の個性や体の形成、社会活動と自然科学的な条件との相互作用について、地勢学、地形学、気候学等の自然地理学の位置づけとともに概観する。その後、自然地理学の主要な構成領域の一つである気候学について、以下のように、気候区形成論の立場から論ずる。

地球上には、常に高温で雨量の多い熱帯、砂漠などの乾燥地帯、寒冷な極地域など異なった特徴を持った気候条件を有している地域がある。これらは類似した特徴をもった地域ごとに気候帯として区分されている。このような気候帯の形成は、基本的には大気の運動と降水などによっている。しかし、大気の運動がなぜ、現在の大気の運動パターンをなしているのかなどをきちんと理解することは容易ではない。大気の運動、降水形成の原動力は、太陽放射にある。太陽放射による熱エネルギーを駆動力として大気の運動がおき、海洋や大陸・島などの陸地との熱交換や水蒸気交換といった相互作用をおこないつつ、熱や水・水蒸気の輸送がおこなわれる。その結果、地域ごとに特徴をもった気候が形成される。本講義では、地球上における気候形成のしくみをこのような素過程から説き起こして、現在の気候帯分布を理解していくこととする。なお、理解のカギとなる素過程は、物理過程であるが、数式は使わず、身近な生活体験から素過程を理解するようにする。〈BR〉 折りにふれ、①南極、北極の気候の類似性と違いに及ぼす地形と大気・海洋による熱輸送の役割、②海洋大陸と呼ばれるインドネシアの乾季雨季の特徴と陸地(島)の役割、そして、③中国乾燥地域と砂漠形成のしくみなど、担当者が実際に観測で訪れているいくつかの特徴的な地域の気候についても解説を行う。

【授業計画】

- 1 自然地理学と気候学(スタートアップ授業)
- 2 春夏秋冬?なんだそれ?世界の気候帯、気候要素と気候因子
- 3 地球は丸かった!エネルギー源としての太陽放射
- 4 バランスを求めて:エネルギー収支と気温
- 5 地球規模エアークンディショナ:大気と海洋による南北熱交換
6かげろうの秘密:大気は下から温まり、下から冷える
- 7 穏やかな海、メリハリの利いた陸地:海陸分布と気温分布
- 8 風の行く先、誰ぞ知る:風を支配する気圧分布と地球の自転
- 9 木枯らしピーク吹いている:海陸分布と季節風
- 10 黒潮の故郷:風と陸と地球の自転がつくる海流
- 11 水のメリーゴーランド:水蒸気、雲、雨、雪、河川、湖沼、海洋、地下水
- 12 押さえきれない悲しみ:相対湿度と雲・降水
- 13 気団の喧嘩と涙:熱帯の雨、中・高緯度の雨
- 14 仮想地球の気候区分布:気候区形成の仕組み
- 15 現実地球の気候区:気候区形成の仕組み

No.	科目名	講師名	期 間	時間
50	教育の原理・課程論	勝山 吉章	9月20日(火)～12月20日(火) 毎週火曜日およびFUプラスアップ授業1回(全15回)	16:20～17:50

開講年次	1年次～
------	------

【概要】

学習指導要領の教育課程の意義や編成の方法について学びながら、経験主義教育(開発主義)と系統主義教育(注入主義)が歴史的に交互に繰り返されてきたことを知る。経験主義とは、児童生徒の興味関心や体験・経験を重視する児童中心主義教育であり、系統主義とはそれぞれの教科の科学性や知の構成を重視する科学中心主義を指す。日本でも西洋でも、この両者は常に教育実践や教育思想のなかで論じられてきたものである。本講義は、これら両者のメリット・デメリットを理解しながら、学校のあり方や教育課程の編成のあり方を考える。そしてカリキュラム・マネジメントの方法原理を考察していく。

【授業計画】

- 1: ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2: 学習指導要領からみる教育課程の意義
- 3: 学習指導要領からみる教育課程編成の方法
- 4: 教育の基本的概念と近代教育学
- 5: 教育の歴史と思想 - コメニウス
- 6: 教育の歴史と思想 - ルソー
- 7: 教育の歴史と思想 - ペスタロッチ
- 8: 教育の歴史と思想 - フレーベル
- 9: 教育の歴史と思想 - デューイ
- 10: 教育の歴史と思想 - 沢柳政太郎と大正自由教育
- 11: 戦後教育の教育課程論争 - 経験主義か系統主義か
- 12: スポートニクショックと発見学習
- 13: 教科カリキュラムと経験カリキュラムの編成方法と特色
- 14: 相関カリキュラム、融合カリキュラム、コア・カリキュラムの編成方法と特色
- 15: まとめ

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
53	現代を生きる (災害から自分や家族を守る)	重松 幹二	9月21日(水)～12月21日(水) 毎週水曜日および令和5年1月11日(水)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	16:20～17:50
開講年次	1年次～			

【概要】

平成7年の阪神・淡路大震災、平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震と、甚大な災害が国内で発生した。一方福岡では、平成11年および15年には御笠川氾濫における博多駅周辺の水害、平成17年には福岡県西方沖地震が発生し、安全と思われていた福岡市内でも日頃から災害に対して高い注意意識が必要であることが明らかとなった。また、将来関東・東海・関西などに就職する学生にとっても、大学で防災・減災に関する知識を身に付けておくことは極めて重要である。

この講義では、防災に関する基礎知識を学ぶことにより、災害から自分や家族を守る術、被害を最小にする準備と対応方法を修得する。特に、

- ・自助(自分や家族の命はまず自分たちで守らなければならない)
- ・共助(被災した近所の人を助けることの重要性)
- ・公助(公的機関による救援行動の大災害時における脆弱さ)

の考え方を柱とし、各トピックスを理解することで、一生涯役に立つ教養を身に付けることができる。

講義は各学部の教員および福岡市役所・消防局・各種報道機関を講師としたオムニバス形式で進められ、文系理系両側面から防災に関する知識を広く得ることに特徴がある。特に、船橋浩二は福岡市消防局の消防吏員としての災害現場での豊富な経験を生かし、災害に対する準備と対応、救助活動、地域防災に関する講義を行う。また松井渉は気象予報士であるとともにNHKの気象ニュースキャスターを担当しており、気象予報の仕組みや自然災害全般に関する講義を行う。高橋淳夫は読売新聞社の記者として東日本大震災や原発事故の取材経験があり、報道機関の取材行動や記事のまとめ方、取材を通して得られた災害周辺状況について講義する。橋津千穂は福岡市城南区役所および福岡市市民局地域防災課として豊富な経験をもち、災害に対する行政機関の考え方や市民への期待を講義する。

なお、この科目は「福岡大学防災士養成研修プログラム」の指定科目となっている。他の指定科目も受講することで、日本防災士機構が認定する「防災士」の受検資格を得ることができる。詳細は工学部事務室あるいはエクステンションセンターに問い合わせること。以下のホームページにも関連資料を掲載している。
<http://www.cis.fukuoka-u.ac.jp/~shigem/>

- 【授業計画】**
1. [防災意識の必要性] 自助・共助・公助(重松)＜スタートアップ授業＞
 2. [災害から自分を守る] 過去の大震災や風水害からの教訓(高山)
 3. [災害の状況を知る] 気象予報、警報・注意報(松井)
 4. [災害から自分を守る] ライフラインの被害想定と断絶時対応(佐藤)
 5. [災害の状況を知る] 最近の自然災害(福岡県西方沖地震、御笠川)(松井)
 6. [災害から自分を守る] 個人の平常時の準備と災害時対応(船橋)
 7. [地域を守る] 地域の防災活動、自主防災組織、消防団活動(船橋)
 8. [地域を守る] 防災関係機関の対応(橋津)
 9. [いのちを守る] 災害心理、被災者の行動意識(矢守)
 10. [災害の状況を知る] 災害に対する報道機関の取り組み(高橋)
 11. [災害と社会システム] 災害と損害保険(伊藤)
 12. [災害と社会システム] 都市災害、防災計画・技術、災害とインフラ・デザイン(柴田)
 13. [災害と社会システム] 被災社会の多様性(高橋)
 14. [いのちを守る] 災害医療、トリアージ、高齢者・乳幼児対応(岩永)
 15. [防災活動の必要性] 防災活動の必要性、私達にできること(重松)＜BR＞

No.	科目名	講師名	期 間	時 間
54	マクロの生物科学 (生命の出現から現代の気候変動までを知る)	中川 裕之	9月22日(木)～12月22日(木) 毎週木曜日および令和5年1月5日(木)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	9:00～10:30
55				10:40～12:10
開講年次	1年次～			
	15回受講する場合は、テキスト代が別途必要です。			

【概要】

生命の基本単位は細胞であることから、細胞の集団である組織や個体さらには個体の集団で起こる生物科学的な現象は、「マクロの生物科学」と言える。

そこで本講義は、まず生命の出現に関する最新の知見から始める。次に、多数の細胞で構成された個体を維持するしくみについて、ホルモンを介して体内環境を一定に保つ内分泌系、外的環境の変化に反応するための神経系、そして異物の体内への侵入と増殖を防ぐ免疫系を例として紹介する。また、それらのしくみをモデル化し原理の理解を試みるシステムバイオロジーも紹介する。さらに、生物である人間の活動が環境に与えている影響を、気候変動と生物多様性の関わりから紹介する。最後に、生物のもつ様々な機能を模倣し、日常生活に役立つ製品を開発する工学分野であるバイオミメティクスを紹介する。

以上の講義を通して、受講学生が生物と環境の関わりを基礎的な理解を得ることを目標としている。

- 【授業計画】**
1. シラバスの説明とイントロダクション(スタートアップ授業)
 2. 地球における生命誕生と進化のシナリオ: 科学史
 3. 地球における生命誕生と進化のシナリオ: 生命を構成する有機低分子
 4. 生命現象を読み解くシステムバイオロジー: 科学史
 5. 生命現象を読み解くシステムバイオロジー: 生命現象の解析
 6. ホルモンによる生体機能の巧みな調節システム: 科学史
 7. ホルモンによる生体機能の巧みな調節システム: ホルモンの調節機構
 8. デジタル信号とアナログ信号を使い分ける神経系: 科学史
 9. デジタル信号とアナログ信号を使い分ける神経系: 神経系の構造と機能
 10. 無限の敵を打ち負かす免疫のからくり: 科学史
 11. 無限の敵を打ち負かす免疫のからくり: 免疫のしくみ
 12. 全地球的気候変動による生物多様性の危機: 科学史
 13. 全地球的気候変動による生物多様性の危機: 気候変動と物質循環
 14. 生物から学ぶバイオミメティクス: 科学史
 15. 生物から学ぶバイオミメティクス: バイオミメティクスの実例
- (2・15については、必要に応じて講義内容の順序が入れ替わることがある。)

令和4年度 高大連携事業「福岡大学で学ぶ」授業概要

No.	科目名	講師名	期 間	時間
56	日本教育史	勝山 吉章	9月22日(木)～12月22日(木) 毎週木曜日および令和5年1月5日(木)・FUプラスアップ授業1回(全15回)	10:40～12:10
開講年次	1年次～			

<p>【概要】</p> <p>本講義は、幕末以降、戦前までの教育と、戦後から今日に至るまでの日本の教育について述べていく。 まず、富国強兵政策を国是とした近代日本は、国民皆学を目指し、中央集権的教育制度を実現した。そして天皇を頂点とする天皇制国家を確立するために、忠君愛国を支配イデオロギーとする国家主義的教育を行った。そのことは第二次大戦において、日本ファシズムの成立要因として重要な役割を果たした。 戦後、日本国憲法と1947教育基本法体制により、平和で民主的な人格形成が教育の目的となったが、東西冷戦下の高度経済成長政策の下、教育の主要課題は企業戦士の育成となった。そして冷戦終了後は、グローバル化においてグローバル企業への貢献が、教育の役割となり、教育基本法が改変され、いま、改憲が目指されている。〈BR〉 本講義では、戦前と戦後の教育の相違と連続性を基盤にしなが、今日の日本の教育がいかなる方向性に向かいつつあるのかを論じてみたい。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス(スタートアップ授業) 2 幕末期の教育 3 学制期の教育 4 教育勅語期の教育 5 日清日露期の教育 6 大正自由教育 7 戦前・戦中の教育 8 戦後民主主義と教育 9 「逆コース」と教育 10 高度経済成長と教育 11 80年代教育改革と臨教審 12 90年代教育改革 13 21世紀の教育改革 14 新自由主義と教育 15 まとめ 				
---	--	--	--	--

No.	科目名	講師名	期 間	時間
57	マクロの生物科学 (生命の進化)	藍 浩之	9月30日(金)～12月23日(金) 毎週金曜日および令和5年1月6日(金)・1月12日(木)・FUプラスアップ授業1回(全15回) ※11月4日(金)は学園祭に伴い休講です。	16:20～17:50
開講年次	1年次～			

<p>【概要】</p> <p>我々はグローバル資本主義の恩恵を受けて、豊かな生活を手に入れた。しかし周りを見渡せば、格差社会、雇用不安、国際紛争、そして地球規模の気候危機など、不安材料が山積しておりSDGsは我々人類の取り組まなければならない緊急の課題となっている。今後これらの課題が解決できなければ、食糧危機を含む様々な困難が我々の生活を脅かす可能性すらある。このような未来予測不能の現代に、皆さんは大学で何を学ぶべきか？</p> <p>その一つの答えは、我々自身にある。なぜなら、未曾有の社会問題、環境問題、そして今後さらに加速化するであろう情報化社会は、我々自身、つまり人間の脳が作り上げてきた産物であるからである。人間の脳がどのような原理でこれらの問題を作り上げてきたのかを知れば、その問題を抜本的に解決する糸口が見えてくる。そして脳のパラダイムシフトをすれば、我々が直面している様々な問題は解決へと方向転換して行くであろう。</p> <p>本講義では、地球上の140万の生物種のうち、なぜヒトHomo sapiensが繁栄を遂げる半面、さまざまな問題を引き起こすまでに至ったかを科学的に読み解く。皆さんは、生物の過去から現在への道をたどることで、ヒトの未来を“想像”し、そして新たな未来を“創造”するための知恵を得ることができるであろう。</p> <p>また本講義では、大学生のみならず社会人にも欠くことのできない論理的な文章の書き方“パラグラフライティング”を、実例を示しながら教授する。この方法を習得すれば、アピール力のある文章の作成、そして短時間で情報収集ができる能力が身につくはずである。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ヒトが様々な問題を起こしている(スタートアップ授業) 2.生命の誕生と歴史～生命の起源～ 3.生命の誕生と歴史～真核生物から多細胞生物～ 4.生命の誕生と歴史～脊椎動物の誕生と進化～ 5.進化とは？ 6.進化の解析法 7.種の起源～生殖的隔離～ 8.レポートの書き方:パラグラフライティング 9.霊長類の進化 10.類人猿からヒトへの進化 11.人間社会の起源 12.共感のしくみ 13.動機付けの生じるしくみ 14.絆形成のしくみ 15.マクロの生物科学のまとめ 				
--	--	--	--	--